東京市立小學校兒童

震災記念文集

尋常二年の卷

東京市學務課編纂

震災記念文集

東京市小學校兒童

大正
13. 9. 9
内交

やねの上で私の名を
よぶので、上を
むいたら、
兄さんが
いたので、私は、
お母さん
と二人で
兄さんに、
手を引っぱって、
もらったので
やうやくやねの上に
上りました。

深川區　明治第二尋常小學校
第二學年　井上高子

震災記念文集

東京市學務課編集

大五
13 9 9
内文

24
T-16

序

兒童は實に純眞なもので、その兒童の天眞流露に觸るゝ時、特に偉大な衝動を受くるものである。

本市學務課は、今春震災記念展覽會を上野自治會館に於て開催し、市立小學校兒童の創作を公開した。圖畫手工綴方何れも震災に因んだもので、その出來榮は實に立派なもので、一覽かの震災が如何に彼等純眞な小市民を脅かしたかゞ窺はれて、涙なしには到底見られぬ尊いものであつた。この尊い可憐な創作を、このまゝ筐底に納めて仕舞ふことは誠に殘念に思ふので、特に綴方の部を編して上梓することゝなつた。

古來天災地變は幾度か人類を脅威し、我等の祖先はこの脅威から幾度か復興して當時の記錄を殘したのであるが、さて其の當時の幼者の手に成れる天眞の創作を發見し得ぬ事は聊か物足らぬ感がする、しかるに常に惠まれたる現代の小市民の教養は、かの大難の體驗を叙してこの記錄をなさしめた。これを永く後昆に傳ふることはあながち徒爾ではあるまいと思ふ。蓋し創作者たる小市民が後年市民として復興せる帝都に座し、この文集を彼等の兒女と共に繙くの時、果して如何なる感想を起こすことであらうか。まことに好箇の記念文集といはざるを得ない。私はかゝる意味でこの小市民諸君の文集に敬意を表する次第である。

大正十三年八月十八日

東京市長

永田秀次郎

150203

序

大正十二年九月一日突如として襲來せる彼の酸鼻極りなき振古未曾有の大變災が、我が東京市民に與へたる物質的精神的の損害と打撃とは實に測り知るべからざるものであつたが、しかも我が東京市民は沈着冷靜よく其の常軌を逸せず、恒心を失はず、此の悲酸なる痛手にも屈せず、長くも彼の國民精神作興の詔書の御精神を體し、恰も春草の萠え出づるが如き元氣を以て、孜々營營復興に努力し、今や土地區劃整理も其の緒に就き、商工業其他も追々復興し、十五萬の罹災學童も既に七割以上の復歸を見るに至り、學校本建築の事業も着々進行しつゝあり、罹災當時の慘憺たりし光景は殆どこれを觀るを得ざるに至つたといふことは、眞に喜ぶべく慶すべき事と謂はねばならぬ。

本年三月我が學務課が主催して、本市各小學校兒童の圖畫手工綴り方等の成績物を出品せしめ、震災記念展覽會を上野自治會館に開催し、一般市民の觀覽に供したる後、それを震災當時多大なる同情を寄與せられたる内外の各地に贈呈して、聊か感謝の意を表する一端としたのであつたが、其の際の出品物は何れも兒童達が純眞なる個性の表現であると共に、眞に彼等の體驗に基づく最も貴重すべき震災の記錄であつて、就中其の綴り方の如き、讀み去り讀み來れば、そゞろに當時の狀況を回想して、到底涙なしには讀了し得られぬ底のものが尠くなかつた。

然るにも拘らず、綴り方成績物は其の性質上、圖畫手工の成績物の如く一目してこれを觀覽することの出來ぬものであるから、自然一般觀覽者も空しく看過するの遺憾を感ぜられたことゝ思はれる。乃ち茲にこれを印刷に附して世に公にし、前記の遺憾を補ふと共に、前古未曾有の大變災を永遠に記念し、長く國民教養の資に供することゝした次第である。若し夫れ本市震災記念館が建設せらるゝならば、其の陳列品の一として茲し本文集の如きは最も價値ある記念品となることであらう。

大正十三年八月十八日

東京市學務課長

佐々木吉三郎

凡例

一、本書は大震火災後、東京市學務課が主催者となつて、全市小學校兒童の精神的復興を圖ると共に、一面技能科の向上に資する目的を以て開催した『震災記念作品展覽會』出品の綴方作品を全部網羅したもので、東京市内百九十六の小學校から撰拔された二千有餘の兒童の作品を、尋常一年から六年まで學年別に六卷、高等科一卷、計七卷に收めたものである。揭載の順位は出品學校の行政區順に依ることにした。

二、震災記念展覽會は大正十三年三月一日の開催であるから、兒童が震火災の印象を實際執筆した時は大正十二年の震災直後であるとしても、之を展覽會に出品した時の年齡は震災の年から各々一歲を加へたことになつて居る。又本書が發行された震災一周年記念日には其の學年も一級進んで居る筈である。

三、技能向上の目的から、必らずしも震災に關係のない文章も、展覽會に出品されたものは全部揭載されて居る、之等のうちには主題内容の冬季に屬するものが多い。之れは展覽會が三月であつた關係である。

四、口繪は各の學年の兒童の作品中製版に適するものから採つたが、文章中の插繪は印刷の都合で殘念ながら全部割愛することにした、そのため行文中の說明に插繪を用ゐたものには、多少具合の惡いところも出來たが、全部そのまゝにして一切添作加筆せぬことにした。

五、その他、本書の校正は讀解の出來得る限り、全部原稿そのまゝといふことを標準にした。標題、姓名、年齡の記載法、並びに句讀、假名遣ひ等が、一卷のうちでも學校及び各兒童によつて往々區々になつて居るのは主として此のためである。

併し原稿轉寫並びに印刷を急いだために生じた不備な點も勘くないであらう。之は出品者諸彦並びに讀者諸君の御寬容を乞ふ次第である。

目次〔第二學年〕

日本のひこうせん　麹町區　番町　安武貞幹……一
おそろしいことばつかり　同　同　恩田君子……二
靖國神社のばらつく　同　富士見　星川康一……三
ばらつく　同　同　野口正子……四
九月のぢしん　同　麹町　佐藤弘……五
まのよい日　同　同　若葉愛子……七
バラックノ町　同　日比谷　中山米太郎……八
兄弟のこと　同　同　高梨育子……九
こはかつたこと　同　上六　原田泰三……九
こはかつた日　同　同　野口富士子……一〇
私たちのつくる東京　同　永田　堀本利雄……一一
はじめて東京へかへつたとき　同　同　齋藤田鶴子……一三
大ぢしんの日　神田區　錦華　原正二……一三
おそろしいこと　同　同　倉本喜美子……一六
いなかの學校　神田區　淡路　小野茂郎……一七
たかちやん　同　同　鈴木久子……一八
去年の大ぢしん　同　神田　竹內勇……一八
九月一日のぢしん　同　同　鈴木とく……二一
ゐもんぶくろ　同　千櫻　荒井翁吉……二三
犬のこと　同　同　島田節子……二四
うれしかつた事　同　練成　石井亮……二五
私のかくご　同　同　土野千代子……二六
大きな火事　同　橋本　由岸信……二七
九月一日　同　同　福田きよ……二八
せつぶん　同　和泉　大澤三郎……三〇
オニンギヤウ　同　同　石井絹子……三一
どこへどこへ　同　小川　小澤辰彥……三三
ざつしを送つて下さつたせいと樣へ　同　同　橋本國子……三三
ジシントクワジ　同　佐久間　山田善造……三四
ぢしんとくわじ　同　同　伊藤光代……三五

東京のやけあと　神田區　西小川　高山康郎……三七
おひっこし　同　同　桐島じしこ……三八
ゐもんぶくろ　同　今川　大島利夫……三九
九月一日　同　同　長谷川光子……四〇
きれいなきしや　同　神龍　川口繁男……四一
ゆうべのゆめ　同　同　三原松つゆ子……四二
九月一日の大ぢしん　同　芳林　小池眞市……四三
あたらしい學校　同　同　中田時子……四四
へいたいごつこ　日本橋區常盤　水野武雄……四五
ひなまつり　同　同　石川幾平……四六
ぢしん火事　同　坂本　久保英逸……四七
とはかつたぢしん　同　同　鈴木　蓮……四八
私の學校　同　久松　松本儀一郎……四九
うれしかつたこと　同　久松　鈴木善子……五〇
大ぢしんの思ひ出　同　城東　飯島宗二郎……五一
このごろの東京　同　同　天海道子……五三
僕の學校　同　有馬　西江定雄……五三
九月一日　同　同　小島知子……五四

にげる時の事　日本橋　千代田　村上富夫……五五
にげる時の事　同　同　東野志貴子……五六
地しんの時　同　十思　平林四郎……五七
火じのとき　同　同　冷牟田由基子……五八
ひたん地から私のバラックにうちのばらつく　同　東華　藤貫直三……五九
僕の家　同　同　西田眞佐子……六〇
ぢしんと火事　同　濱町　高橋善市郎……六〇
しんさいの時　同　箱崎　篠塚つぎ……六一
やけあと　同　同　木下三枝子……六二
大ぢしんのこと　京橋區　寶田　鳥羽嘉子……六四
天との學校　同　同　和田延雄……六五
てんとをいただいたこと　同　靈岸島　坪内サト子……六六
ぢしんの時　同　齋藤武雄……六七
雪の朝　同　鐵砲洲　久都内トミ……七八
キノフ　同　同　宮田孝一……六九
いちばんよかつたこと　同　泰明　松浦シゲ子……七〇
私のうちのばらつく　同　同　山口敏郎……七一
　　西形ひさ……七二

ぢしん　京橋區　築地　鈴木淳夫……七三
ぢしん　同　同　檜田文子……七三
僕たちの机　同　月島　青木一英……七四
このごろの私のうち　同　同　榊原ふじ子……七五
九月一日　同　南槇町　鈴木敏雄……七七
去年の大ぢしん　同　同　大西綾子……七八
大しんさい　同　明石　的場政夫……七九
大正十二年九月一日大ぢしんと大かじ　同　同　山本久子……八二
うちの小鳥　同　越前堀　姉川金次……八五
學校　同　同　山形ゆき子……八六
ヂシントクワジ　同　月島　三堀重光……八七
大ヂシン　同　小瀧トキ子……八八
大地しんのときには　同　京橋　尾崎勝治郎……八九
大ヂシンの時には　同　同　長島かつ子……九〇
今の東京　同　文海　大崎三雄……九一
やけあと　同　加藤泰子……九二
大ぢしんの日　同　佃島　增田耕司……九二
新らしいお机　京橋　佃島　石川京子……九四
ユフガタ　芝區　鞆繪　渡邊洋……九五
子ねこ　同　同　川本博子……九六
さむい夜　同　御田　原田清五郎……九七
じやがいも　同　同　花田キヌエ……九八
大ぢしん　同　櫻川　上杉武雄……九九
私のうちのきんじよ　同　同　下村春子……一〇一
豆まき　同　南海　田中龍雄……一〇三
私のおひな樣　同　同　水野はな子……一〇三
私のにんぎやう　同　白金　岡田克子……一〇三
今日の風　同　同　馬場邦彦……一〇四
おてがみ　同　南櫻　綠川治男……一〇五
私の家　同　同　駒井ミヤ子……一〇六
せつぶん　同　芝　會田博……一〇七
とはかつたぢしん火じ　同　同　岡部みゑ……一〇八
東京の街　同　西櫻　おくむらけん一……一〇九
私の家　同　同　かねだみな子……一一〇
ぼくの竹馬　同　臺町　宇佐川四郎……一一一

私のえいごの先生　芝　臺町　川添賀美子…一一三
九月のぢしん　同　聖坂　清水豐男…一一三
九月一日のぢしん　同　同　浦口茂子…一一四
豆まき　同　愛宕　戸板康二…一一四
いてふの木　同　同　井本アサ子…一一七
うちのぶんちや　同　高輪　竹内久夫…一一七
私の家　同　同　池田稻子…一一九
てうせんからかへる時のこと　同　神明　松田愿…一二〇
おひなさま　同　小山しず…一二一
ゆきの朝　同　神應　指山達義…一二三
私のおぢいさん　同　同　中島壽美江…一二四
マント　同　芝區芝浦　眞野政行…一二五
マント　同　同　米山ハツヱ…一二六
大ぢしん　麻布區　麻布　加藤富三…一二六
私の町の朝　同　同　横山享子…一二八
霞の朝　同　南山　高須一郎…一二九
おむかへ　同　同　藏川ミヨ…一三〇
やけてんしや　同　飯倉　佐藤吉郎…一三一
ぢしん　麻布　飯倉　谷川しづよ…一三二
バラック　同　三河臺　西山安男…一三三
だいじな梅の花　同　同　井林鈴子…一三五
をぢさんのめい日　同　本村　生駒芳行…一三六
赤ちやん　同　同　磯村美榮子…一三七
ボクノヒコウキ　同　笄　正木義雄…一三八
まめつたい弟　同　同　小林よし子…一三九
ぢしん　同　麻中　溝口日出太…一四〇
山内さん　同　同　高村佳子…一四一
九月一日ノ大ヂシン　同　車町　村上又男…一四三
大ぢしん　同　同　竹内榮子…一四四
ヂシン　同　絶江　岩本安治…一四五
ヂシン　同　同　飯塚ハル子…一四六
おそろしかつた九月一日　同　赤坂區　赤坂　磯邊幹介…一四七
大ぢしん　同　同　結解百合子…一四八
バラックニスム　同　青山　祖父江鼎介…一五一
オ友ダチ　同　同　川島楠美子…一五二
しんせつなおまはりさん　同　同

オマハリサン　赤坂區　中之町　鹽谷　實…一五三
にはとり　同　同　平林正男…一五四
ごまめ　同　同　喜多川久治…一五四
ていとふくかう　同　青南　今井貞彦…一五五
ぢしんの時　同　同　高木喜代子…一五六
大ぢしん　同　氷川　川合幹夫…一五七
大ぢしん　同　同　畑ます子…一五八
大ぢしん　四谷區　第一　佐藤千秋…一五九
大ぢしん　同　第二　八木橋君子…一六〇
しんさいの後　同　同　佐藤修一…一六一
九月一日　同　同　森田春子…一六三
どうよう　同　第三　山本進…一六四
おそろしかつたぢしん　同　同　合田道子…一六六
おそろしかつたぢしん　同　第四　島田裕之…一六八
だいくさん　同　同　瀨川壽子…一七〇
やけあと　同　第五　山田重治郎…一七一
大ぢしん　同　同　有田よし子…一七二
九月一日の大ぢしんの時　同　鮫橋　丸山正雄…一七三
ヂシン　四谷區　鮫橋　熊谷こと…一七四
九月一日の大ぢしん　牛込區　赤城　山崎城…一七五
九月一日の大ぢしん　同　同　堤禮子…一七七
大地しん　同　愛日　岡田靜雄…一七八
おそろしかつた九月一日　同　同　荒井志保子…一八〇
九月一日　同　早稻田　緒方省吾…一八二
九月一日のしんさい　同　同　駒形房子…一八三
今朝のぢしん　同　余丁町　野矢一郎…一八四
大地震の事　同　安宅　久枝…一八五
ばらつくの町　同　津久戸　依田貞孝…一八七
大ぢしんのあとぼくはたいそうがすきだ　同　同　大隈禮子…一八八
私はストーブです　同　江戸川　譽田幸房…一八九
東京のよりず　同　同　犬塚千代子…一九〇
大ぢしん　同　市ケ谷　加能越郎…一九一
松田君へ　同　牛込　横山文輔…一九三
ぢしんでこゝへくるまで　同　水谷末子…一九五

ぢしん　牛込區山吹　田中富雄…一九六
ぢしん　同　同　小川達子…一九七
去年の大ぢしん　同　長延　野島耕造…一九八
大ぢしん　同　同　徳元はる…二〇〇
しはん學校のくわじ　小石川區礫川　郷津乾一郎…二〇二
うちの朝　同　同　佐藤義子…二〇三
大ぢしんと大火じ　同　明化　小鹽正士…二〇三
大ぢしんを思つて　同　同　山崎ユキコ…二〇四
今朝のぢしん　同　黒田　城子富夫…二〇六
ぢしんとくわじ　同　同　三枝ミツ…二〇六
しんせつにをしへてくれたことども
三月三日　小石川區柳町　豊田鎭雄…二〇八
家のよつちやん　同　同　齋藤鶴子…二〇九
冬の夜　同　小日向臺町　山田典…二一〇
大正十二年九月一日　同　同　笠井和…二一一
繼方　同　金富　趙鐵生…二一三
一月十五日のぢしん　同　同　金子千枝…二一四
ぼくの兄さん　同　御殿町　山島金三…二一五
私の兄さんことはかつた大ぢしん　同　小石川區御殿町　秋山菊代…二一六
　同　青柳　濱口正…二一七
大ぢしん大かじ　同　同　武藤榮代…二一九
ことはかつたこと　同　同　指ケ谷　窪寺正治…二二〇
チヨとビス　同　同　宮崎君子…二二一
大ヂシン　同　大塚　淺川範典…二二二
どうえう三つ　同　同　妹尾隆…二二三
ふうせん　同　同　清水達美子…二二五
ぢしんの事　同　駕籠町　北村大三郎…二二六
ぢしんとくわじ　同　同　小島康代…二二八
大正大震災　同　林町　增田晃…二三〇
そのころ　同　同　中村君子…二三二
學校がやけてしまつてから　本郷區湯島　日箇原久…二三四
九月一日の思出　同　同　奈良育子…二三五
大地しん　同　誠之　朝田尙彦…二三七
大地しんと大火じ　同　同　宇野眞佐子…二三八
九月の思出　本郷區本郷　長澤正郎…二三九
ぢしんと火じ　同　同　山崎佳年子…二四〇

ゆきの朝　本郷區駒本　入谷清治…二四三
ぢしん　同　同　山崎淑子…二四四
大ぢしん大火じ　同　富士前　丹羽龍…二四六
うちのねこ　同　同　厚木智枝…二四九
私が動物園でしやせいしたこと　同　根津　山田昇…二五〇
今朝の雪　同　同　岡野林子…二五二
やけあと　同　追分　佐藤重郎…二五三
九月一日　同　同　坂口富子…二五四
朝　同　眞砂　兒玉晨…二五五
うれしかつたゆめ　同　同　土田千枝子…二五七
おそろしい大ぢしん　同　千駄木　南部壽巳…二五八
大地シンノ日　同　同　山邊享…二五九
ぢしんとかじ　同　元町　小林利英…二六〇
大ぢしん　同　同　高橋嘉子…二六二
大ぢしん　下谷區根岸　尾崎太郎…二六四
九月一日のこと　同　同　淺井ヤスヱ…二六六
大地震と大火災　同　忍岡　唐木田武夫…二六八
大地震と大火事　同　同　吉田寛子…二七〇
大ヂシン大クワジ　下谷區練塀　倉林秀雄…二七四
私の內の犬　同　同　石川ミチ子…二七五
大地しん　同　下谷　山田武…二七七
地しんと火じ　同　下谷　余語晃子…二七八
私はミルクキヤラメルです　同　東盛　中村健太郎…二七九
ふくぼ　同　同　和田スミ子…二八〇
大ぢしん　同　入谷　三澤三郎…二八〇
ゆめ　同　同　石塚トミエ…二八一
九月一日ノヂシントカジ　同　西町　松尾卓郎…二八二
九月一日ノヂシン　同　同　天野マサ子…二八四
こわい地しん　同　御徒町　小野寺輝夫…二八五
私のおぢさんやおばさん　同　同　西村壽代…二八六
昨年の九月一日　同　谷中　松浦一郎…二八八
大地しん　同　同　橋爪道子…二八九
大震火災　同　金曾木　高橋眞一…二九〇
大ぢしん　同　同　高本玉枝…二九一
ぼくの家　同　黒門　伊藤光夫…二九二
私のお母さん　同　同　堀滿壽枝…二九四

私はポストです　下谷區　山伏町　小宮正次郎…二九五
九月一日大ぢしん　同　同　石井澄子…二九六
九月一日のぢしん　同　竹町　長濱信利…二九七
私どもの學校　同　同　金子三代…二九八
ヂシンノトキニハ　同　臺東　村中安彦…二九九
大ヂシンノトキニハ　同　同　大川スエ…三〇〇
私の學校　同　龍泉　蓮見光裕…三〇一
私の學校同　同　堀内千代子…三〇二
大ぢしん　同　大正　栗原靜夫…三〇三
バラックのうち　同　同　石川つゆ…三〇四
私の學校　同　萬年　北村仙吉…三〇五
晝の朝同　同　北村シヅ子…三〇六
僕の學校　淺草區　待乳山　矢野尚二…三〇七
おにんぎやう　同　同　木村菊枝…三〇八
大ぢしん　同　淺草　平島進…三〇九
大ヂシン　同　同　伊藤多津子…三一一
去年の九月一日　同　精華　小泉喜三郎…三一二
昨年のぢしん　淺草區　精華　飯沼正典…三一三
コレハアノヂシンノトキニ　同　柳北　安田清次…三一五
今の學校　同　江淵時子…三一六
はつ雪　同　育英　宇野陸郎…三一八
ばらつく　同　鈴木君子…三一九
大ぢしん　同　富士　藤田義大…三二〇
今朝の雪　同　砂川美代…三二一
私のびりけんさん　同　山本八重…三二二
きげんせつのお話くわい　同　新堀　山中大五郎…三二三
とんどのおけふしつ　同　古岡喜美子…三二三
ぢしん　同　福井　岩井一郎…三二四
昨日の風　同　山田喜久代…三二六
ひとうきのうた　同　松葉　小栗衡…三二七
よしをちやん　同　長尾みえ子…三二八
大震災の時　同　千束　秋田秀雄…三二九
ヂシントクワジ　同　今尾菊代…三三〇
せつぶん　同　石濱　川又柳藏…三三二
ペンヂヤミン　淺草區　石濱　田邊八重子…三三三
ミットとグラー　同　小島　鈴木光太郎…三三三
ブ　同　同　加藤久惠…三三四
地しんと火じ　同　同　五味幹雄…三三五
ぢしん　同　山谷堀　伊東幸子…三三六
ぢしん　同　同　古寺禮二…三三七
てんとの學校　同　田原　石塚ふみ子…三三八
私の學校　同　横川　小林勝藏…三三九
ねえさん　同　金龍　森田はつ…三四〇
私のいもうと　同　江東　田中二三夫…三四一
大ぢしん　同　清島　石田キミ…三四三
あの朝　同　二葉　仲政治…三四四
震災後の僕の學校　同　玉姫　鈴木正吉…三四四
九月一日大ぢしん　同　本郷ハナ子…三四五
ね　こ　本所區　牛島　持木高…三四六
豆　マキ　同　同　杉山まさ子…三四七
豆　マキ　同　明德　荒金晴三郎…三四八
ぢしんとかじ　同　同　武内榮子…三四九
九月一日ノカジトヂシン　同　中和　明石正太郎…三五〇
一ばんこはかつたこと　本所區　中和　湧井穆子…三五一
高橋さんのこと　同　本所　辻本三郎…三五三
大ぢしん　同　同　勝山ヨネ…三五四
ぢしん　同　柳島　渡邊武…三五六
ね　と　同　同　青木富與子…三五七
九月一日ぢしんとやけたこと　同　横川　坂巻市太郎…三五九
シンサイノコト　同　同　松本しづ子…三六〇
まめまき　同　江東　石毛碧…三六一
ぢしんとかじのこと　同　福山信子…三六三
ぢしんのあと　同　二葉　仲政治…三六四
私はどうしてたすかつたか　同　同　田中千代子…三六四
ヰナカヘイツタコト　同　茅場　秋葉榮太郎…三六五
キ　同　長谷川ソノブ…三六六
九月一日のこと　同　綠　早川吾郎…三六七
ヂシントクワジ　同　同　田中道子…三六八
ぢしんの時　同　本横　大槻堅太郎…三七〇
ぢしんの時　同　五十嵐ヌイ…三七一

目次

ぢしんのこと　本所區業平　中島　博…三七三
ぢ　し　ん　同　同　瀧口キヨ…三七四
大ぢしん　同　小梅　松本一男…三七五
ぢしんとくわじ　同　同　相川壽子…三七五
のこと
ボクラノキヤウシツ　同　柳　元　中村知也…三七八
系本をいただいて　同　同　尾崎たづ子…三七九
大火の時　同　三笠　大谷眞一郎…三八〇
大火事の事　同　同　山下千代子…三八一
あそんだこといもうととあそんだこと　同　菊川　佐藤常作…三八四
ぢ　し　ん　同　同　中山知子…三八五
ぢしんと火事　深川區深川　久保谷健次…三八六
昨年の九月一日の出來事　同　同　青山惠以子…三八七
私どものきやうしつ　同　東川　湯淺辰一郎…三九〇
大ぢしん　同　同　村田カヨ…三九二
バラック　同　明治　齋塚信夫…三九三
地しんはこはい火事はこはい　同　同　戸島信三郎…三九四
バラックの學校　同　東陽　茂木眞一郎…三九五
私のすきなおにんぎやう　深川區東陽　篠原文子…三九六
ばらつくの東京　同　六間堀　霜島よし子…三九七
九月一日のぢしんとくわじ　同　同　中川竹次郎…三九八
クルシカツタコト　同　扇橋　盛田三郎…三九九
大ぢしん　同　福島シゲ…四〇〇
ぢ　し　ん　同　臨海　入山晟一…四〇一
はつゆき　同　同　平間信子…四〇三
九月一日　同　元加賀　池田政之進…四〇三
大ぢしんの日　同　同　寺島シヅエ…四〇四
ぢ　し　ん　同　數矢　村井英男…四〇五
九月一日のぢしんと火事　同　同　須田イネ…四〇六
あなかの學校　同　八名川　河村忠藏…四〇八
しんせつなおぢさん　同　同　川崎芳子…四〇九
おそろしかつた大ぢしん　同　川南　大橋　富…四一〇
地しんの時　同　同　鳥屋たま…四一一
おそろしいぢしん　同　明治第二　井上高子…四一三
ぢしんとかじ　同　同　野本ゆき子…四一四
九月一日　深川區靈岸　鏑木寅之助…四一五
九月一日　同　同　牧野うめ…四一六
十五日のぢしん　同　猿江　土産田卯之助…四一七
私の家　同　同　岡田ミオ…四一八

目次

日本のひこうせん

麹町區　番町尋常小學校
第二學年男　安　武　貞　幹（十才）

日本のひこうせんはまるくなつぽそくつて、うしろがとんがつてゐます。

いろは黄色です。二だいあります。

あの去年の九月一日のじしんの時、東京のじしんのあとをとびました。ぼくはそれを見てうれしくつてたまりません。みんなでばんざいをなんどもいつてゐました。そのうちにひこうきとひこうせんはむこうのほうへとんで行きました。

またすいじようひこうきもとびました。

おそろしいことばつかり

麹町區　番町尋常小學校
第二學年女　恩田君子（十才）

わたくしはじしんの時にはすぐおもてへでてたきびをしました。
それからおかあさんたちとなりのおばさんとみんなでおむすびをたべました。
それから學校へこようとすると、まだじしんがくるとあぶないからがつかうをやすんでしまひました。

はやく
　にげませう
ばりきに
　のつて

がら〳〵
　がら〳〵

靖國神社のばらつく

麹町區　富士見尋常小學校
第二學年男　星川康一

去年の大地しんに家がやけた人は、ばらつくにすんで居ます。
靖國神社のばらつくには、たく山の人がすんで居ます。
僕はこの間行つて見ましたら、ばらつくがずらりとならんで居て、大さうきれいでした。
僕の組にそ谷といふ人が居ますが、その人はこの靖國神社のばらつくにすんで居ます。
大火じで家がやけた人は、本とうにかはいそうだと、思ひます。富士見小學校では、生との内は大ていやけて居ます。

僕の内は大地しんにも大火じにも、たをれたりやけたりしませんでした。かはらも一つもおちませんでした。
地しんの時は、にはにござをしいたりして、ずい分おそろしゆうございました。

ばらつく

麹町區　富士見尋常小學校
第二學年女　野口正子

私の内はばらつくです。ばらつくですから風がぴう〳〵はいつてきむいです。そして内のにかいは大風がふくとぐら〳〵ゆれます。牛がふちこうゑんにばらつくがたくさんできました。さか上へいつてさか下をみると、いちめんとたんやねです。中にはかはらやねのうちもすこしございます。

九月のぢしん

麹町區　麹町尋常小學校
第二學年男　佐藤弘（十才）

私はぢしんの時は、學校からかへつて、ごはんを食べようと思つておぜんの前へすはつてゐましたが、かまはずにゐました。そのうちに大きくなつたのでおとうさんのそばへ行つてつかまつてゐましたが、おとなりの家のやねのかはらがおちてゐました。それからすぐ前の公園ににげて行つて木につかまつてゐました。いつたん家へはいつて學校のかばんとふろしきづつみを一つもつて又公園へ行きました。
すぐおほりの方を見たら、くろいやうな赤いやうな雲が見えたので大そうおどろきました。それからすぐにおぢいさんが毛布をもつてきてくれました。

ままもなくしんるゐから、じてんしやでおむすびをもつてきてくれました。おぢいさんが火もとを見に行きました。そのうちに火がちかくなつたのでいそいでにもつを出しはじめました。それから赤坂でやけだされた人がきていつしよになつてにもつを出してくれました。家がやけるすこし前に大つかの方から、私と正春と二人つれに來ました。大つかへ行つて向ふを見ましたら、わたに火がついたやうに見えたので大そうおどろきました。それから前のじどうしやごやのこんくりーとの上にねました。

二日目には〇〇人さわぎ、火をつけたりするので又こはいめを見ました。九月十五日の午前に澁谷から、平田さんがむかへにきてくれました。澁谷へ行く道で、でんしやがこんだのでこまりました。私が澁谷でひなんをしてゐる時に京橋でやけだされた人がきて私どもといつしよにゐました。その人は十一月十八日にもとの所にひつこしましたが私どものこして來たのは十二月の十二日です。今はもうこうじ町の方へきてもとの學校へあがつてゐます。

まのよい日

麹町區　麹町尋常小學校
第二學年女　若葉愛子（九才）

この間の大風のふいた日、私はちようどかぜをひいて學校をお休みしてねてゐました。今ころはもう學校がはじまつて皆さんはべんきようしてゐらつしやるだろうと思つてほんとうにつまらなくなりました。私はねながらご本をよんだりゐ本を見たりしながらねてゐました。ちようどおひるごろでした。うちのすぐうしろに今おふろ屋がふしんをしてゐます。そのやねにのつてゐたいたが風でとんで來て私のねてゐるあたまの上のまどのがらすどにあたつてこわれてしまひました。あたまのすぐそばにおちました。私はびつくりしてとびおきました。おとうさんや女中が大さわぎをして、がらすのかけたのをひろいました

わたてこまかいかけをひろうやら大さわぎをしました。でもよく私のあたまにささらなかつたと、おとうさんもびやうきでねてゐるお母さんもおつしやいました。私もほんとうにけがをしなくてよかつたと思ひました。まのよい日、うれしい日でした。

バラックノ町

麹町區　日比谷尋常小學校

第二學年　中山米太郎（八年十一ヶ月）

バラツクノ町ハニギヤカデス。ソレデ人ガワアワアサハイデヰマスソレデタンスヤホンバコヤイロイロノモノヲ、クルマニノセテヒツパツテイク人モアリマス。ダイクサンガウチヲツクツタリ、ヤネヲツクツタリシテヰマス。ボクハソレヲ見ルタビニイソガシイトオモヒマス。又大通リニデンシヤヤ、ジドウシヤガハシツテ行クノヲ見ルト大ヘンイソガシソウデス。ボクハオホキクナツタラエライ人ニナリタイトオモヒマス。

兄弟のこと

麹町區　日比谷尋常小學校

第二學年　高梨育子（八年五ヶ月）

私の兄弟は三人です。私といもうとと、おとうとです。いつも私があそびに行くと、いつしよについてといつてなきますから、私はおんぶをすればつれていつてあげると言ひました。するといもうとがそれならばおんぶしませうと言ひました。そしてあそびに行きました。

こはかつたこと

麹町區　上六尋常小學校

第二學年男　原田泰三（九才）

ぼくがごはんをたべてゐると、じしんがガタガタときました。おにはへでると、かはらがガラガラとやねからおちて來ました。ぼくはこはくつてたまりませんでした。

土手へ行くと、火じですから、皆は家へ行つて色々の物を出して來ました。ぼくとあかちやんは土手にすはつてゐると、向ふから、もやく〳〵とけむりがでて來ましたから、こはくてこはくてたまりませんでした。晩になると、赤い火が一めんになつてゐますから、ひるまよりもつともつとこはうございました。

こはかつた日

麹町區　上六尋常小學校

第二學年女　野口富士子

私は家の前でねてゐると火の子が私の足のところへおちて來ました。私はあついので目をさまして見ると、火の子がおちて赤くなつてゐました。空を見るとまつかでした。火の子がもやうのやうになつてとんでゐました。よくあさ、でん車通に行くと、おさけやさんのおさけが青い火を出してもえてゐましたきえませでんした。ほんとうに今思ひ出してもぞつとします。

私だちのつくる東京

麹町區永田町尋常小學校

第二學年男　堀本利雄

今度の大ぢしんや大くわじで、めちやめちやになつた東京をりつぱに作つて、大ぢしんでもつぶれないやうに作りたいと思ひます、いへのはしらをふかくぢめんの下にうづめて、やねをしつかりかはらがとばないやうにしようと思ひます、又みちも何百人といふ人があつまれるやうに、ひろくしやうと思つてゐます、のり物もたくさんこしらへて、べんりにしやうと思ひます、りつぱなうちとすれば五かひか八

かひにしやうと思ひます、水どうも少しのぢしんでもとまらないやうに、こしらへやうと思ひます、もつとりつぱなうちなら九かひか十かひにしやうと思ひます。き車がくぐるとんねるも、すぐくづれないやうにしやうと思ひます。學校もこんくりいとで作つて、すぐくづれないやうに作らうと思ひます、はしもじやうぶにかけて大水でもながれないじやうぶなはしを、かけやうと思ひます、でんしんばしらもたふれないやうにして、でんしんのはりがねもきれないやうにしやうと思ひます。

はじめて東京へかへつたとき

麹町區永田町尋常小學校　第二學年女　齊藤田鶴子

私はよその學校に居た時、大そう永田の學校に來たかつたのです。まい日ここの學校のことばかり思つてゐました。それから三月目に、やつとたのしい東京にくることになりました。よろこんで、みんなとていしやばにゆきました。私が東京にきてみると、そして三時間ぐらいでうへのにつきました。でかり、大きなうちは一つもありません。みんなうちがとたんやねの小さいうちばあの五かいでりつぱだつた三ごしは、中ごろからくづれかかつてゐます。どこもかしこも、もとのかたちは少しもないので、私はおどろきました。やうやく、おうちへついたといふので、じどうしやからおりて見ると、もとのおうちとちがつてゐるので、私は何だかへんなきもちがしました。

大ぢしんの日

神田區　錦華尋常小學校　第二學年男　原　正　二

九月一日ひる十二時五分まへ、にはかに、ごとごとと、大ぢしんが

來た。その時ぼくは、びやうきであつた。はじめの内は何大じやうぶと思つて、ゐたが、だんだんひどくなつてくるので、とこの上にとびおきた。そして兄さんとはしらにつかまつてゐると、一つ橋の方から火があがつた。ぼくのうちの人はみな大じやうぶと、思つて居ると火は、だんだんとちかづいて來たので、皆電車通りへ行つた。だんだん火はちかづいて來た。ぼくたちは皆竹橋の方へいつた。うちのお父さんは火がどこまできたか見てこいと、しよ生にいつた。しよ生はどんどんぼくの家の方へいつた。あまりしよ生がかへつてこないのでお母さんや、お父さんや、兄さんは、しんぱいになつてきた。しばらくつてしよ生もかへつて來た。そしてふとんをせをつてゐた。しよ生のはなしをきくと火はぼくの家のまへまできたので家の中に入つて、ふとんをもつて來たのだといつた。だんだん火はちかづいたのでぼくたちはひなんしよをきめることにした。だんだんくらくなつて來た。又しよ生にこうじ町のしんるいのところへいつて水を、もつてきてくれと、おとうさんはたのんだ。とうとう晩になつてしまつた。しばらくたつと、兄さんとくるまが來た、うちのお母さんとぼくのいもうとと、二人でのつた、ぼくとお父さんと兄さんとしよ生とだけはちやうちんをもつて。しんるいの家の方へとあるいていつた。しんるいの家では、にはに、ござを、ひいてその上にすわつてゐた、ぼくはびやうきなので家の中にねてゐた。するとしんるいの家まで火がちかづいてきた。皆はにげてゆくようういをしてゐる。それで皆はにげてゆかうとするので、ぼくを、おいてゆかれるとこまるので、中からお父さんと、しよ生がやつて來たのでしよ生はおんぶした、皆はふとんを、しよつたりにもつをもつてしかん學校の方へにげた。そこにてんとをはつて夜をあけるのをまつてゐた。

おそろしいこと

神田區　錦華尋常小學校
第二學年女　倉本喜美子

あの大ぢしんの時に、家がつぶれてしまつて、私と、お母さんとおばさんと兄さんと四人、つぶれた中にはいつてゐました。

そこへお父さんが、とんできて、むしつて下さいましたから、皆出ましたが、出るがはやいか、お母さんがきぜつしてしまひましたから水をのまして大さわぎしてゐるうちに、前からも、うしろからも火が出ましたので、にげ出しました。

竹ばしのじやりの所で、一晩夜あかししました。又おちやの水のしはん學校のやけあとの所で二晩夜あかししました。

今でもお母さんは「きものなんかやいてしまつたけれども、皆がたすかつたから、ようございました」となみだをながします。

いなかの學校

神田區　淡路尋常小學校
第二學年男　小野茂郎

大正十二年九月四日お母さんや、兄さんや、ねえさんと、いなかへにげて行きました、ぼくはすぐにいなかの學校へ入りました。友だちがゐないから毎日ぼくは一人であそんでゐると、やけだされやけだされといつて、みんなにいじめられました。ぼくは東京へ行きたかつたが行かれないのでがまんしてゐました。その内にお父さんがむかへにきてくれたのでぼくはうれしかつた。東京へ來たらお友だちがみんなゐたのでうれしくつてたまりません。

たかちやん

神田區　淡路尋常小學校
第二學年女　鈴木久子

をぢさんの内のたかちやんは、今年二つになりましたが、しつけいやおいでおいでや、いろ〳〵な、げいをして、みんなをわらはせます。そしておしつこをすると、みんなの所へ行つておぢぎをしてをります二三日前から少し歩るけるやうになりました。

去年の大ぢしん

神田區　神田尋常小學校
第二學年男　竹内勇

思ひ出すのも恐ろしい去年の九月一日のことです。なつやすみがすんでうれしい僕等の始業式をすましてから、家へかへつて少しするとあの大きなぢしんがありました。いもうととおとうさんはやすんで居ました。僕は其のときお使に行つて家に居ませんでしたが、あわてゝろぢの方へかけつけましたら、おとうさんは、もういもうとをだいてはだしで外へ出て居ました。其の中に早や今川橋の方では、火事がはじまりましたので、おとうさんはすぐにやくしよへ出かけました。すこしたつて僕はおかあさんや、おぢさんにつれられて、一つ橋の方へにげようと思つてにゆうだうくわんの所へ來た時には、小川町の方もさかんにもえて居ました。いそいで一つ橋の所へ行きましたら、よその人がもうこゝまで來たらあんしんだと言ひましたので、僕はよその人のにもつによつかかつてやすんで居ました。

又こゝもあぶなくなつたので、一つ橋をわたつていのちからがら竹橋の軍たいの所へ行つて火のこをはらひながら夜を明しました。二日の朝早くほりの水をくんで、顔を洗つて、おぢさんと二人でおとうさんをさがしに出かけました。するとおとうさんは軍たいの門のそばに居

ましたので、其のときの僕のうれしさと言つたら、何とも言ひようがありません。なみだをながしてよろこびました。おとうさんも、私共の事をしんぱいしながら夜をあかしたさうです。

それからすぐにおかあさんの所へもどつて話しましたら、おかあさんもあんしんなさいました、其の夜もやけとたんや、天とで小屋を作つて夜を明かしました。三日の朝大森のおぢさんの家へ行うと思つて皆でつれだつて出かけました。途中でやけ死んだ人や、けがをした人をたくさん見て、きのどくでたまりませんでした。足をひきづりながら品川まで來て一やすみして、それから足のいたさをがまんして、やう〳〵大森のおぢさんの家へ着きました。其の時おぢさんたちがみんなのぶじであつたのを見て涙をこぼしてよろこんでくれました。私の家では何一つださず、たれもきのみきたまゝであはれなものでしたが、僕はそれでも何よりも大せつな、學校のおけいこどうぐをみんなかばんに入れて持出たのを何よりのしあはせに思つてよろこびました。其れで夜ねるときもかばんをまくらにして少しもはなしませんでした。このかばんはいつまでもだいじにしておきたいと思ひます。

九月一日のぢしん

神田區　神田尋常小學校
第二學年女　鈴木とく

朝學校へ行つて式をしてかへつて、おとうさんとびやういんへ行きました。びやういんへ着いてこしかけにかけると、とつぜんがた〳〵とぢしんが來ました。びやういんのまへの家からかわらが雨のやうにおちて來ます。少しおちついたので外へ出ますと、一けんおいた隣の家がつぶれて中からひたいをちにしたおばあさんが出て來ました。其の時私はすぐにお母さんの事が氣にかゝりました。家にはお母さんと、姉さんだけです。兄さんは二人ともへいたいに行つてゐます。うまい所へにげられたかしらと心ぱいしました。かへつてくる時電

車通を通りますと、ぢしんをよける人で一ぱいです。やつと家のそばまで來ると交番の前にお母さんと、姉さんのすがたが見えました。それでやつと安心しました。私もそこへかへつて家のやうすなどをきゝました。ふと私が向ふを見ますと交番の後から黒い煙が見へました。其の中にけむりのぐあひではにげる方がよいようです。それで私たちはにげる事にしました。しんせいかんの方へにげろと言ふのでおとなりのおぢさんと、おばさんと兄さんと、お向かへのおばさんと、しいちやんと、よねちやんと、あかさわさんのおばさんと、きみちやんと、としちやんと、私たち六人がにげるので大へんでした。しんせいかんの方へにげましたがもはや火はえんりよなくきて居ました。

大きなにもつをせをつた人がどん〳〵にげて行きます。私たちは仕方がないから宮じやうの方へにげました。宮じやうのそばへ來ると近くのお湯屋のおぢさんが車をひいてこちらへ來ます。私たちのそばへ來て車のかじを下ろしました。そして持つて來たむしろをひいて私たちをのせてくれました。

私はのどがかはいてたまりません。此の上どうなる事か心ぱいでなりません。こうして一日の日もすぎてゆきました。

ゐもんぶくろ

神田區　千櫻尋常小學校
第二學年男　荒井翁吉

僕たちはどうしてゐもんぶくろをいたゞいたのだろう。

九月一日の大火じで皆やけてしまつたので、ゐなかの人が、僕達が何もないだろうと思つて、ゐもんぶくろを下さいました。

三番目のゐもんぶくろは去年の十一月二十三日ごろいたゞきましたそれを先生がぼくたちに下さいました。それをいたゞいて家へもつていつて見せました。その中に何が入つてゐるかと思つてはさみを取り出してあけて見ると中にはえんぴつタオル外に色々なものが入つてゐ

ました。やけない人達はこんなに僕たちによくしてくれるんだから僕もゐるなかがやけたときは色々の物を入れてゐもんぶくろを造つて上げませう。

本たうに僕はありがたいと思つてよろこんでゐます。

にいさんは今その「たをる」をつかつてゐます。えんぴつは僕が大事にして使つてゐます。僕はどうも有りがたうといつておれいの手紙を出しました。

犬のこと

神田區　千櫻尋常小學校
第二學年女　島田節子

やけてからいなかのおばあさまの家へ行つてゐました。

おばあさまの家には大きな犬がゐます。かはいらしいので私はだいすきです。學校からかへつてくるとよろこんでへんなこゑでなきますおざしきに上つてきものをきかへておかしをたべようとするとすぐにとび出してきます。私がきしやみちへ行つたりするとしらないうちに來てゐます。私がそろ〳〵行くと犬がさきに行つてまつてゐます。からだの大きいわりにはおくびやうでしらない犬を見たりじてんしやにのつてゐる人を見るとびつくりするやうなこゑでほへます。たいていの人はおどろいてにげてしまひます。私にはなれてゐるのでとび上つたりなめたりします。犬と別れて東京へかへるときは何だかさびしくて仕方がありませんでした。

うれしかつた事

神田區　練成尋常小學校
第二學年男　石井亮

僕の家は九月一日の大火でやけました。僕は家中の人といつしよにおそろしい事や、かなしい事にあひました。やけあとに僕の家のバラツ

クが出來て歸つて來た時はうれしくてうれしくてたまりませんでした。十月からは學校に行きました。そしてお友だちにあつた時はほんとうにうれしうございました。

私のかくご

神田區　練成尋常小學校
第二學年女　土野千代子

ぢしんでゐなかへにげましたが、そのと中でずいぶんなんぎなことをしました。私は、おもいにもつをしよつて、死んでもよいかくごをきめて、やうやくいなかへつきました。それからいなかでおせわになりましたが、あそんでばかりゐては、わるいと思つて朝早くおきて水をくみに行つたり、そとのそうじをして、かみをゆつていただいて、やうやく學校にゆくのです。その中にだんだん日がたつて、お父樣がむかいにいらつしやいましたので、いつしよにかへりました。東京へきてからすぐ學校にあがりました。私は毎日先生のをしへをきいて天皇へいかにごおんがへしをしませうと思ひます。

大きな火事

神田區　橋本尋常小學校
第二學年男　山岸信（十さ）

九月一日に大ぢしんがありました間もなくあちらからもこちらからも火事が出ましたから僕のおとうさんやお母さんはすぐににづくりをしてそれを車につんでくらかけ橋へはこびました。僕は弟の手をひいていつしよについて行きましたすつかりはこんでしまつた後で僕のお內がやけてしまつたそれから又はま町がしへにげましたが向を見るとめんにやけてゐます其うち火のこがたくさんとんで來ましたからお父さんは車をひいてお母さんはあかんぼをおぶつて女中はにもつをしよつて皆で上野へにげましたが道ににもつがあつたり人がたくさんゐ

てづいぶんなんぎをしました上野で少しやすんでから谷中のお寺の門の所で一ばんねました。それからおはかの中や停車場で二ばんねましした四日になつて下谷のとよづみ町のしんるいへ行つて、此お內で長い間おせわになりました。

九月一日

神田區　橋本尋常小學校
第二學年女　福田　き　よ（十才）

私は九月一日の大じしんでおどろいてきんこやの前の電車通りへお母樣と私と弟の三人でにげました。方方火事がはじまつて來ましたらお父樣が來てこんなに四方八方の火事ではどーせあの內はたすかりやしないからすこしなにかださなけりやだめだといつてお母樣をつれていつてしまひました。すこしたつと小ぞうがはこ車をひいてくる其のうしろからお父樣だのお母樣だのお店の人だのきました。上のの山はだいじやうぶだなーとお父樣がいつたらみんなが上のの山の方を見まするとなるほど山の方はやけないやうでですといつてにげて行きました。そして上のの山へついたらお兄樣と小ぞうが橋本町の福田さーんとよお父樣がさがしにいつたらお兄樣と小ぞうをつれてまあよかつたといひながんでゐたさうです。お兄樣と小ぞうがはぐれてしまひました。ら來ました。それからおなかがすいたからお兄樣が持つて來て下さつたごはんをたべようといつてみんなでいただきました。そこで一晩夜を明かしました夜が明けてからおひる前の十時となりました。みんなでせんろの道を通つてほうぼうの水をのみながらやつとあかばねまで行きました。あかばねの內はおとくいですが大そうしんせつにして下さいました。おかみさんがおくから出て來て皆さんごはんもたべないのでせうからといつてたくさんいろいろなごちそうを持つて來て下さいました。私は其の時のおいしさはありませんでした。それからごはんがすんですこしたつてからねましたが〇〇〇〇じんが來ただの又じ

しんがくるなどといひましたからおどろいて外へ出てしまひました。私は今日こそゆつくりねむらうと思つたらちつともねむる事が出きませんでした。夜が明けてからごはんをいただいて九時の汽車で行かうと思つて八時半に出かけましたがのる人が一ぱいでのれないで九時二十分になつてやつとのれました。のるのはいいがまどからさかさまにおしこめられるのです。やつと前橋までつきました。おりる時には高いまどからせんろにおりるのです。私は大そうこはい思をしました。

セツブン

神田區　和泉尋常小學校
第二學年女　大澤三郎（九才）

豆マキノバンデシタ。アソビニイツテカヘツテキマシタラ、オカアサンガ豆ヲイツテヰマシタ。ボクガ、「ソノ豆ヲマクノハダレデスカ、」トキキマシタラ「オマヘガマクノダ。」トイヒマシタ。ソノ内ニオ父サンモ、シゲサンモカヘツテキマシタノデ、ボクハ神サマニソナヘテアル豆ヲトツテ、大神宮サマカラ、マキハヂメマシタ。「フクハ内、フクハ内オニハ外」ト大キナコエデイヒマシタ。ソレカラオモテヤ、ウラヤ、ニカイニモ、スコシマキマシタ。アトデ、ボクハ十、オトウサンハ三十七、オカアサンハ三十一、シゲサンハ四十五六、カゾヘテタベマシタ。

オニンギヤウ

神田區　和泉尋常小學校
第二學年女　石井絹子（十才）

私ノオニンギヤウハ、京ニンギヤウデス。私ハ小サイトキカラコノオニンギヤウヲカハイガツテヰマス。ダン〳〵大キクナツテカラモ、オブツタリ、ダイタリシテ、カワイガツテヰマス。モウダイブン古クナツテ、手モ足モトレテシマヒマシタ。

ソレニ、オ店ノ人ガ、ホウリナゲタリスルノデ、オナカヲオシテモ、ナカナクナリマシタ。アタマノ毛モ、ヌケテ少シシカノコツテヰマセン。イクラノリデハツテモオツコチテシマヒマス。

オ母サンニヌツテイタダイタキレイナキモノモ、ヤブケテシマヒマシタ。ホントニカハイサウナオニンギヤウニナリマシタ。

どこへどこへ

神田區　小川尋常小學校

第二學年男　小澤辰彦

僕が學校からかへつてお母さんにごはんにしていたゞかうと思つたらきうにぢしんが來た。僕はびつくりしてそとへ出た、するとじん保町の方から火が出てこちらへむかつて來ます。おどろいてどこへにげやうかとかんがへた。

やつと思いついたそれはとだなのやしきでした。

戸田さんはきつとやけないだろうと思つて荷物を運んだが。だめだつた。そこからすだ町へにげたがそこでみんなにもつをすてゝしまつた。けれどもほとけさまだけはしよい、こんどはけいしちやうへいつた。そしたらお母さんが宮内省に居ることがやつとわかつた。

ざつしを送つて下すつたせいと様へ

神田區　小川尋常小學校

第二學年女　橋本國子

この度はけつこうなご本をいたゞきまして誠にありがとう御ざいました。大そう面白いご本でございます、いつも學校から歸ると此のご本をよみます、何よりたのしみでございます。父母も皆様のごしんせつを大そうありがたく思つて居ります、私共の學校はまだバラツクです、せんには下にむしろをしいて其の上に長いおぜんの様なお机をお

いて勉強して居ましたが。ただ今ではやつとこしをかけるお机になりました。しかしおへやがせまいので立つにも出るにもほんとうにきうくつです。おへやの中はいつもまつくらです。それでてんきをつけてべんきやうして居ます、お友だちはだんだんふへてはじめは十八人ばかりでしたが今では四十七人になりました。又おい〳〵かへつていらつしやるのでせう。學校が一日も早く出來るのを樂みにして居ます、皆々樣おからだをだいじに先はみなにかはつておれい申上げます。

ジシントクワジ

神田區　佐久間尋常小學校
第二學年男　山田善造

私ハタバコヤニシヤボンダマヲフイテアソンデヰマシタ。ソレデジシンガイツタノデタバコヤノウチノ中ヘトビコミマシタ。ソレカラオトウサンガオイデトイヒマシタカラハダシデトビダシテアカンボウヲサガシタガナカナカワカリマセン。ダン〳〵サガストウチノウラノオイナリサマノトコロニヰマシタ。ソノ內ニアサクサバシノ方カラダンダンウチノ方ヘヤケテクルノデコミヤマサンノウチヘニゲテイキマシタガ、マダアブナイノデ竹町ヘイキマシタ。スコシヰル內ニココモアブナクナツタノデタキノガハマデアルイテイキマシタ。ソノアクル朝ヨコスカカラムカヒニ來マシタノデシバウラカラグンカンニノツテヨコスカノヲヂサンノトコロヘイキマシタ。

ぢしんとくわじ

神田區　佐久間尋常小學校
第二學年女　伊藤光代

九月一日學校からかへつて來てあつくて〳〵たまりませんからおかあさんとねえさんとにいさんとわたくしとすずんでゐました。わたくしはすずみながらたいしやうことをひいてゐました。するとあの大ぢし

んなのです。おや子四人はたんすのそばでおがみました。さうしてぢしんのすきまを見てやつとそとへとびだしました。さうして大どほりへひなんしようといつてでてみますともう大ていのお方はといたやはりいたやこもなどをしいてひなんしていらつしやいました。そのおなかまにいれていただきました。まもなくおとうさんとにいさんがおかへりになりました。こんどはくわじです。三方から火がかぶつてきました。するとにいさんとねえさんがおにもつのしたくをしようと思ふうちにでいりのうちがあぶなくなつたのでおとうさんもにいさんもいつてしまひました。くわじはどんどんうちのほうへちかよつてきました。おにもつのしたくはすつかりできてゐましたから、すぐそれをもつたりしよつたりしてうへのの山下ににげました。ちよつとおかあさんがかんがへてここはうちがたくさんあるからもえないともかぎらないと思つてこんどは池のふちへにげてそこで一ばんよをあかしました。さうしてこんどは皆さんが大つか方めんへにげなさいといひましたからすがもへにげました。三日の朝ついてごはんをいたゞいたときはまことにおいしうございました。

東京のやけあと

神田區　西小川尋常小學校
第二學年男　高山康郎

私がバラツクにきたときは、まだまだずつとさびしいでした。すいどうなどははうばうにだしつぱなしになつてゐます。夜になると電氣のひかりはとほくにしかみえませんでした。それが今ではもう、水道はみんな家の中へはいつてゐます。もうちきにがすが來ます。このあひだくわうたいしでんかとながこ女王でんかとごけつこんあそばしましたそのときはずいぶんにぎやかでした。あと二三年たちますともとよりりつぱな東京ができるといふことです。

おひつこし

神田區　西小川尋常小學校
第二學年女　桐　島　じ　し　こ

今日はおひつこしの日です、朝どこからかお父さんは小さな車をかりてきました。そしてにもつをつんで九だんのバラックからやけた三さき町へ行きました。お母さんはにもつをしよつて私はあかちやんをおんぶしました、そしてゑ本ももちました。いもうとは私のかばんをかけて車のあとをいそぎました。内へついたのは三時ごろでした。おなかぐすいたのでお母さんにおやつをいたぐきましたあかちやんはおつぱいをいたぐきました。それからまたおんぶしました。三さき町にはせんのお友だちがたくさんゐるのでうれしくてたまりません。あしたは小玉さんと學校に行きませうとそうだんしました。そのばんくたびれておゆにいつて何にもしらずにねました。

ゐもんぶくろ

神田區　今川尋常小學校
第二學年男　大　島　利　夫

私は、一月三十日に學校で先生にゐもんぶくろをいただきました。先生から家にかへつてからひらいてみたら、お米でした。といはれたのでかへつてひらきなさい。はちやうせんからきたのです。おかあさんがよろこびました。それからあくる日のあさ家中でいただいたお米をたべました。私も兄さんもおとうさんもおかあさんもよろこびました。

こんどちようせんの方にこまつたことがあつたら、私の方からいろ〳〵なものをおくらうとおもひます。

九月一日

神田區　今川尋常小學校
第二學年女　長谷川光子

九月一日のその日はほんとうにおそろしい日でした。長いなつやすみがすんでたのしい學校がはじまつた日でした。私は式をすましてからおひるのごはんをすましたところでしらかい水よくへゆくつもりでおひるのごはんをすましたところでした。そのときおそろしい〳〵地しんがおこりました。私はおばあさんとお兄さまと三人で家の中で小さくなつてゐました。その中だい一の地しんがやんでおとなりのおばさまといそいで上野へにげました。そしてみてゐる中に火じがはじまつてちよつとのまにうちはやけてしまひました。地しんはほんとうにおそろしうございます。家の人はみんなぶじでしたが、よそではずいぶんしんだ人もあるとのことです。私はこのおそろしい九月一日をわすれることができません。

きれいなきしや

神田區　神龍尋常小學校
第二學年男　川田繁男

ぼくはきのふていしやばへ、あそびに行きました。

するといけぶくろの方からきれいなきんのついたきしやがきました。ぼくが「ばんざーい」と手をあげると、しやしようさんがぼくをみてにこにこわらひました。ぼくはきまりがわるくなつたのでいそいでうちへかへるときぬかるみの中へころんでしまひました。

どろだらけになつたのでかへつてからおかあさんにしかられました、よその人にわらわれました。

ゆふべのゆめ

神田區　神龍尋常小學校
第二學年女　三原松ツユ子

ゆふべ、また九月一日にあつたようなおおきなじしんがゆれてきてうちのしようじも戸もはずれて、なにもかもめちや〳〵になつてしまひました。私はびつくりしておきてみるとそれはゆめでした、じしんと思つたのはおとうとがあばれてゐたのでした。

九月一日の大ぢしん

神田區　芳林尋常小學校
第二學年男　小池眞市

學校がひけてからおひるのごはんをたべようとしておぜんをだしたら大ぢしんが來たのでいそいで神田明神のお山へにげました。方々に

火事がおこりました。父さんはよそからかへつて荷物を明神へはこびました、まさか明神はやけるきづかひわないと思つてあん心してゐました。そのうちけむりがきたのでもうだめだと思つて池のはたへ行きました。そのうちに同朋町はやけたときいてかなしくてかなしくてたまりません、その時は僕とお母さんと二人でお父さんにはぐれてしまひました。あくるあさ早くお母さんがさがしにいつてお父さんがきましたのでその時はじつにうれしうございました。その晩は三人で大學のにはにねましたが〇〇〇〇がくるから用心して下さいといふので、おそろしくてねられません。又夜中に高等學校のにはへにげだしました、そこには大そうしんせつな人がゐましておむすびや色々な物をいただきました。二日もたべませんからその時は大そうおいしうございました。この人のご恩はいつまでもわすれることは出來ません、三日の朝九だんのをぢ様の家はやけないときいたのですぐにまゐりました。本もかばんもきものもないのでかなしくなりました。七日ばかりおせ

わになりましてそのうち中野へこしました。お父さんは毎日東京へかよつてはたらき、お母さんは家の仕事をしてゐました。僕は野方尋常小學校にはいつて十二月のすゑまでゐました。そのうちに東京の家が出來ましたから今の所へかへりました。地しんのことは一生わすれることが出來ません。

あたらしい學校

神田區　芳林尋常小學校

第二學年女　中田時子

さきごろの地しんで家がこはれたりやけたりして東京がめちやくちやになつてしまひました、けれども今はバラックがたつたり、電車が通つたりしてだん〳〵よくなつてきました。私どもの學校も去年のくれにあたらしく出來ましたので、一月のはじめからこれにうつりました。しかし一つのけうしつに百五十人もはいるので大そうせまくて仕方がありません。先生のお話では四月になるともつと大きな學校がたつといふことです。私はそれが何よりたのしみです。さくらの花のさくころにはみなさんといつしよにひろいけうしつで、べんきようしてりつぱな人にならうと思ひます。

へいたいごつこ

日本橋區　常盤尋常小學校

第二學年男　水野武雄

ぼくは、はらつぱでへいたいごつこをしました。ぼくは大佐になつてささやぶの中で「すすめすすめ」といつてあそびました。そしてぼくが「あつまれ」といつてよびあつめました。ぼくは日本の方でした、せんそうがはじまりました、そわけました。ぼくは日本とどいつとれから「どんどん」むかうの山へにげました、日本では、いそいで、おいかけました。それから、「だんだん」日がくれてきました、みんな

で家へかへりました。そしてまたあしたやりました。

ひなまつり

日本橋區　常盤尋常小學校
第二學年女　石川幾子

ああうれしいひなまつりはもうちかくになりました。私たちはお正月よりももつとたのしみにしてまつてをります。けれども今年はあのにくらしい大ぢしんからおこつたくわじのために、あのうつくしいだいりさま、ささささまをはじめかはいらしいごにんばやしや、私の一ばんかはいがつてよいきものをきせてやつたお人形などみんなやきつくされてしまひました。私はほんとうにかなしくてなりません。けれどもけがもせずもとの學校にかへつてまへのおともだちと、仲よくあそんでゐるのをそれよりもつとうれしくおもひます。私はいつしようけんめいにべんきやうをして、ごほうびにまへよりももつとよいおひ

なさまをかつていただきたいとおもひます。

ぢしん火事

日本橋區　阪本尋常小學校
第二學年男　久保英逸

九月一日僕は學校からかへるとすぐおばあさんにつれられておいしや様へいきました。すんで内におそろしいあのぢしんにあひましたらまたおそろしいつむじ風にあひました。かんすぐやけたといふことをきいて、僕の内は本所であつたからもう野のいけのはたでそのばんはのじくしました。二日の日にあさくさのかんのん様へにげるとちうでおそろしいつむじ風にあひました。かんのん様へにげましたらまた〇〇〇〇人がさはがせました。こはいところでのじくしました。三日は電車の中でとまりました。四日はさゑもんばしのところでとまりました。五日からしんるゐでねることがで

きました。ごはんもはじめておいしくたべました。

ごはかつたぢしん

日本橋區　阪本尋常小學校
第二學年女　鈴木蓮

九月一日の日に學校からかへつて間もなくのことでした。おうちがぎちぎちと音をたててゆれ出ましたので、私はびつくりしておほらいにとび出しました。するとすぐとなりのお家ががらがらとつぶれましした。もうすこしおそかつたら私もつぶされるところでした。それから一人で大どうりへかけ出して行きました。後を見ると内の女中が居ましたので二人でおねえさんやお兄さんをさがしました。皆を見つけて夕方までそとに出て居ました。そのうちに火事がはじまつて空はまつかになつて、火の子がとんできました。私とお兄さんは大事のかばんをしよつて、丸の内へにげました。天との中で三日ぐらいゐた時はず

いぶんこはいこともありました。そして私の學校もおうちもみんなやけて、やけ死んだ人もたくさんあるといふこともきいて、私は大きなこゑを出してなきました。

私の學校

日本橋區　久松尋常小學校
第二學年男　松本儀一郎（九才）

私のいつてる學校はこないだのじしんですつかりやけてしまひました。私たちは毎日バラツクのおへやでべんきようをしております。校内にはひなんみんがまだたくさんゐますのでじゆうにうんどうができません。はやくもとの學校のやうになればよいと思ひます。今度四月に入學するせいとたちは此の學校を見て何と思ふでせう。でも一つうれしいことがあります。それは先生が一人もおけがをなされなかつたこととおともだちがだんだんふえてくることです。

うれしかつたこと

日本橋區　久松尋常小學校
第二學年女　鈴木善子（九才）

私はぢしんの時いとこの兄さんと一時ごろ丸の内へにげました。その時おかあさんとおとうさんのことがしんぱいでしかたがありませんでした。にげて來たところは、一めんに赤くなつて火の海のやうでした。お兄さんがどこからかおにぎりをいただいて來ました。それを二人で分けましたけれどもたべられませんでした。五日の朝お父さんがはたを立てて大きなこゑで私の名をよんでさがしに來て下さいましたおかあさんは上野にいらつしやるときいて、私はうれしくてなみだが出ました。この時のことは今でもわすれません。

大地しんの思ひ出

日本橋區　城東尋常小學校
第二學年男　飯島宗次郎

大正十二年九月一日のお晝頃、急に大地が搖れだした。家は皆がら〳〵と崩れた、風は人を吹きとばす位強よかつた。そして方々から起つた火は町から町へうつつて東京市は全く火の海となつてしまつた。逃げて行く人たちの泣きさけぶこえ、又親をさがす子ども、子をさがす親それはまるでぢごくの樣な有樣であつた。火は三日三ばんもえつゞけそして東京のはんぶん以上は、灰となつてしまつた。搖れかへしは時々おこつた。それも火なみの上に居るやうに搖られ、ひふくしようあとでやけ死んだ人は三万人以上であつた。そしてその死がいを、やくけむりを見てゐた人はなさけないかなしいなみだを流した。幸に僕たちは命がたすかつて死んだ人から見れば大へんうれしい事である。

そして一生けんめいはたらいて、死んだ人のたましいを、なぐさめてやりそしてこの東京を又もとのやうなりつぱな市にしたいものだ。

このごろの東京

日本橋區　城東尋常小學校
第二學年女　天海道子

しんさいのあつた時は、どこの家もみんなやきつくされ、たま〳〵のこつてゐる家はまがつたりくづれかゝつたりしてゐて、まことになしうございましたが、此のごろは電車もじどう車もじてん車も、こわいほどたくさん通ります。又家もたくさん立ちました。けれども屋根はひく〳〵、瓦はすくなく大がいとたんです。それからアーケードと云ふものがはう〴〵にできまして、そこにはごふくやもあり、食どうもあり、色々な店があつて、にぎやかでまことに、べんりです。大通りは夜は電氣がたくさんついて、ひるのやうで夜店もたくさん出てにぎやかでございます。人々は力のかぎりはたらいてもとのやうな町に、しようとせいだしてゐますので、やがてもとよりはなほにぎやかなほりつぱな東京になることでせう。

僕の學校

日本橋區　有馬尋常小學校
第二學年男　西江定雄（九才）

僕の學校は有馬學校です。前にはお池があり金魚やかへるやかめなどがゐます。うゑてあつてよいがくかうでした。きよう室はにかいであかるくお机はきれいでしたが九月一日の火事で丸やけになつて今はこんなバラックがくかうになつてしまひました。お机はエビスビールのはこで作つたもので下にはアンペラがしいてあります。そこへすはつてべんきようするのです。どうか早くもとのやうなよい學校にしたいと思つて居

ます。バラックはさむいからたまりません。雪でもふるとつめたい風がすきまからふきこんできてたまりません。風のあるときはやかましい音がして先生のお話もよくきこえません。

九月一日

日本橋區　有馬尋常小學校
第二學年女　小嶋知子（九才）

おひるの時私がおかつてでおひやをのみませうとおもつてすいどうにてをかけましたらがたがたとおとがしますのでおどろいておざしきへあがりましたらじよちゆうがしごとをしていてとも子さんとこゑをかけましたからなにといひましたとおよびになりましたからはいとおへんじしましたらこつちへいらつしやいとおよびになりました時おかあさんがおつるもいらつしやいといつてみんながそとへでてゐましたがほうぼうからけむりがみえたのでおどろいてにげました。私はまるのうちへにげてやつとおむすびをたべましたらうまうございました。もうこはくてこはくてがたがたふるへてゐました。今思ひ出してもぞつとします。

にげる時の事

日本橋區　千代田尋常小學校
第二學年男　村上富夫

僕はじしんの時お父様のおつかひでいうびん局へ小包を持つて行くとちゆうでじしんにあつて大いそぎで家へはいるかはいらぬうちにかわらがからがらがつちやんとおちました。それでぼくはかあさんの下になりお父様は店のしな物をおさへてゐるととなりのくらがたふれて來ました。そのうちにじしんはだんだんおちついてきましたのでかんざきさんのうちの前に八時ごろまで居てそれから上野で一ばんのぢくをしてにつぽりのひぐらし公ゑんで又一ばんのぢくして三日目に根ぎ

しのしんるいに行きそこでたたみの上でみんなのんびりとねました。

にげる時の事

日本橋區　千代田尋常小學校
第二學年女　東野志貴子

私は九月一日に學校からかへってきておひるごはんをいただいておる友だちのうちであそんでゐますとぐらぐらつと來たので私は大いそぎでうちへかへりました。それからまたいくたびとなく小さなのがきましたので私たちは淺草ばしのこうゑんに行きました。するとこんどは火事なので上野へにげました。そこで一ばんのじゆくしました。その時は女ばかりでした。その時はこはくてろくろくねむれませんでした。おかあさんらはなみだをこぼしてゐらつしやいました。そのよくじつ私はおとうさんたちと、あひましたのでそこからにつぽりへゆきそれからあすかやまへ行きました。持つてゐた物といつてもおかあさんが小さなはこを持つていらつしやいました。このはこの中には大じなゆびわが三つはいつてゐるのです。私はかばんをかけてやかんを持つて居ました。それからじどう車をたのんでべつそうへ行きました。私は思ひだしてわあつとなきますといつもならおおこりになるおかさあさんでもいつしよにないて下さいました。

地しんのとき

日本橋區　十思尋常小學校
第二學年男　平林四郎（九才）

九月一日の大しんさいのときぼくは一ばんはじめにおくへとびこんでかばんをかけてそれからなにをもつてゆこうとかんがへてゐたらやつときがついてぼくは金どけいと銀どけいをだしました。うちではやぐが八つでました。ぼくはまあいいあんばいだとおもつてゐたらうちの人はそのふとんをがあどのなかにいれてみんなはいにしてしまいま

した。それからぼくはごふく橋うちにやつとはいりました。

火じのとき

日本橋區　十思尋常小學校
第二學年女　冷牟田　由基子（十才）

九月一日のかじのとき私はおとうさんとおばあさんとをばさんとごろさんとたかちやんと八人で十思學校へにげました。それから十思學校があぶなくなつたからこぶなちようへにげました。そこもあぶなくなつたからまるのうちへにげました。それからまるのうちへ一ばんのじくをしました。そのあくる日よよぎへにげました。それからごろさんとただしさんとをぢさんと三人でうどんやさうめんをかひあつめました。

ひなん地から私のバラツクに

日本橋區　東華尋常小學校
第二學年男　藤貫　直三（十才）

千葉から東京へかへる時汽車のまどから外を見ますと一めんにバラツクのお家が見へました。まもなく兩國てい車場へつきました。それから兩國ばしをわたつて人形町どほりにきました。人形町はバラツクのお店がたくさんできてにぎやかになつてゐました。それから私のバラツクのお家にかへりました。

この時はほんとうにうれしいと思ひました。

うちのばらつく

日本橋區　東華尋常小學校
第二學年女　西田　眞佐子（十才）

あの大じしんのあと、かじで皆うちがやけてしまひました。
それで十二月二十日に、ばらつくのおうちができあがりました。ばらつくは、すきまだらけでよるはなほさむいのでせきゆこんろを買つて毎ばんそれをたいてゐます。
戸をしめるとすきまが見えるので和子ちやんがそれを見ては、おーといつてゐます。和子ちやんは、ばらつくがすきだと見えて、いつもすきあなを見てはゆびをつつこんではよろこんでゐます。和子ちやんは私のいもうとで今年三つになるのです。

僕の家

日本橋區　濱町尋常小學校
第二學年男　高橋善市郎

僕の家はばらつくですから雨がふるともります。又風が吹くとすうすうとすき間からはいつてさむくつて仕方がありません。僕の家の人はやけない時には七人居ましたが、やけてから五人ばかりになつてしまひました。僕の家ではやけない時にはお米がずゐぶん賣れましたがやけてからは一日に十圓ぐらゐしか賣れません。前の家はたばこ屋さんです。たばこやさんはずいぶんうれるさうです。僕のおかあさんは「私もたばこ屋さんになればもうかるだらう」といつていらつしやいます。僕の大きなねえさんは「しもたやがいい」といつて居ます。僕は米屋がすきです。せんの家は風が吹いてもさむくはなかつたです。いまに僕はおとうさんと、はたらいてきつと大きな家をたてます。

ぢしんと火事

日本橋區　濱町尋常小學校
第二學年女　篠塚つぎ

私はぢしんの時すぎむらさんのお山へにげて行きました。おかあさんと兄さんと三人でぶるぶるしてゐるとき「つなみがくる」といつた

ので大そうおどろきました。見ればむかふの方からけむりが出るし火はほうぼうもえてゐます。風は大そうひどくなつてきました。火のこがあぶないから私は、はおりをあたまにかぶつてゐましたけれども風がふくのでほこりが目にはいつたので目は赤くなつてしまひました。それからむちうでにげましたが。火事がをはつてから舟にのつてきて見ますと私の家はもえてしまつてなんにもありません。買ひたてのよい着物ももらつたばかりのおにんぎやうも本もかばんもみなもえてしまひました。私はあのこはいぢしんや火事はいつまでたつてもわすれられません

しんさいの時

日本橋區　箱崎尋常小學校
第二學年女　木下三枝子（十才）

私の內は大ぢしんの時やけて私はおとうさんおかあさんにわかれおねえさんときんじよの舟にのせていたゞきまして東京わんまでにげましたが火はあとからどんどんおいかけてまゐります。そのうち舟のまわりは火にかこまれどうしたらよいかとみんなこまつておりましたところへもうたがきてたすけてくれましてしながはのあるお內へつきました、二日たつてからみなさんといつしやうにしながはからあるいてはこざきの私の內のやけあとへきましてたちのきのふだをみましたらうしごめのたかた、とかいてありましたから又おねえさんといつしやうにおよそのおじさんにおくられてたかたへいきましたらおとうさんばかり居ておかあさんのいくへがわかりませんから、おとうさんがさがしにでましたらその夕方おとうさんがおかあさんをさがしてかへつてきました。

私はなによりふうれしゆうございました。

やけあと

日本橋區　箱崎尋常小學校
第二學年女　鳥　羽　嘉　子（十才）

このあひだの大火事のあとで私がゐなかからきて見ますとほうがやけてやけのはらになつて居ました。私のうちのやけあとへいつて見るとおふろのえんとつとおかまのえんとつがやけのこつてゐましたやけとたんや、かわらがたくさんおちて道もさつぱりわからなくなつてしまひました。私のうちのよこにすこしひろいとほりがあつたのですがそこもちつともわかりませんでした。よそのやけあとにきれがはんぶんやけてゐるのがありました。又でんしやどうりへいつて見ますとでんしやのせんがやけてぶらさがつてゐました。でんしやのみちにでんしやがやけてゐました。

どしうばしのたもとにじやうきぽんぶがやけてその下に人が五人しんでゐました。私はそれを見ておどろきました。あまりきもちがわるいのでわきをむいてとほつてしまひました。

それからせんじうのうちへかへりました。かへるとちゆうで上野の山の上を見ますと人がたくさんひなんしてゐました。

大じしんのこと

京橋區　寶田尋常小學校
第二學年男　和　田　延　雄

私は九月一日の大じしんの時、ともだちのうちにあそんでゐましたじしんがゆれてきましたからいそいでしたにおりてきました。それからそとへでゝ行きました。そしたらあたまの上にかわらがおちてあたまをけがしました。それからそとでたつてゐました。よる九時ごろねえさんといもうとと私とおみせの人と丸の内ににげました。そしておみせの人は又うちのところへかへつてきました。おかあさんとおとう

きんとおみせの人とにもつを京橋の橋のところへはこびました。それから丸の内ににげました。

その時にはたべものがなくて、三日たべませんでした。私はないてゐました。それからしんるいの人が車をもつてむかへにきてくれました。あの時たべもののなかつた時には、なさけなかつたです。

天との學校

京橋區　寶田尋常小學校
第二學年女　坪内サト子

火事でやけてからしばらく千住のしんるいへ行つていましたが、京橋のお店ができたので、はじめて學校へ行つてみました。通が山だらけになつてゐて道がわからなかつたからうちのせいにつれてきてもらひました。そして學校へいつたら天との學校でした。三年の女の子が

坪内さんのいもうとだといつてきくよさんといつしよに天とにいれてくださいました。天との中でいろいろいろなことをならひました。

かぜのふく日でも天との中はあつたかでしたが、雨のふる日にはこまりました。

てんとをいただいたこと

京橋區　靈巖島尋常小學校
第二學年男　齋藤武雄

私はじしんの時伊勢の松坂へ行きました。そして田舎の學校へあがつてゐましたがせいとがらんぼうですから早く靈巖島の學校へかへりたいと思つてゐました。そしてはじめの學校へきてみると門とれんがのくづれたのばかりでした。そして始めの内は屋根もない所で、本もかばんもなくて先生の話しをきいてゐました。そのうちに先生たちがみんなでいくつもてんとをはつて下さつて、その中でべんきようする

やうになりました。それはあめりかのくにでくださつたのだと先生がおしへて下さいました。私はその時はじめて、てんとのうちへはいりました。そのほかあめりかでは、いろ〳〵のものをおくつて私たちに下さいました。私たちは大きくなつたらあめりかへ、ごをんがへしをしようと思ひます。

じしんのとき

京橋區　靈巖島尋常小學校
第二學年女　久都内トミ

あのおそろしいじしんのあとの火事でやけた時、うちでわみんなあかし町へにげようとしましたが、そちらの方に火が一めんに見えたので又かへつてすいどうぶへにげました。

そこで六日、野じくして六日目の朝、いなかのおぢいさんが東京わんに舟をまたせてをいてむかいに來て下さいました。私たちはごはんもたべずに、舟にのつてゐなかにゆきました。そして今までこわかつた事やひどい目にあつた事をはなしますと、おばあさんはなみだをこぼしてそれはなんといふなさけないことだろうとおつしやつてすぐに私たちみんなにおちやをごはんなど下さいました、けれ共私たちはおばあさんの内へついてやつとあんどしました。そして私は九月二十八日までゐなかにゐて二十八日の朝、東京へかへつて來ましたけれども、うちは小さくて中はまつくらでつまらないとおもひました。着物やかばんやりぼんもみんなのこらず、やいてしまゐました。

雪の朝

京橋區　鐵砲洲尋常小學校
第二學年男　宮田孝一

今日は雪がふりました。朝おきて見ると雪がつもつてゐましたから朝ごはんをたべて友だちとうんどうをしました。だんだんあかるくな

つたから皆で雪だるまをこしらへたり、雪なげをしたりしました。犬も一しよにおもてをかけまはりました。

七〇

キノフ

京橋區　鐵砲洲尋常小學校
第二年學女　松浦シゲ子

私ハキノフ一ノセ先生トアカシチヤウヘイキマシタ。ソレカラグルツトマハツテマルタノウヘヘコシヲカケテヤスミマシタ。月シマノハウヲミルトヤケアトガアカクヒロビロトミエマシタ。ナンダカカナシイヤウナキガシマシタ。ソレカラウチヘカヘルトキニ山下サントイツショニカエリマシタ。

いちばんよかつたこと

京橋區　泰明尋常小學校
第二學年　山口敏郎

私のうちがやけてからしぶやのしんせきへひなんをしてゐました。その日のあくる日からお米がなくてみんなげんまいをたべてをりました。私は一とうはじめなかなかたべられなかつたけれども二三日たべどほしてをりましたらげんまいのほうがおいしいとみんないつてをりました。

すこしたつてそのしぶやのしんせきからふつうのお米をすこしとおにぎりをもつてきてくださつたときのうれしさはありませんでした。

私のうちのばらつく

京橋區　泰明尋常小學校
第二學年　西形ひさ

私の家はさむいさむいばらつくの家になつてしまひました。
すいどうがありませんから大屋さんの家のすいどうへくみにゆくのですがお店がこのごろはいそがしいので、人がいつぱいです。それだから水をくみにゆくのでもづいぶんふじゆうです。それに家がせまいのでごみがちらかります。ですから私が學校からかへつてごはんをたべるとざしきをきれいにはいてかたづけます。やけないまへはかざり物などがとこのまにうんとかざつてありましたが今はとこのまなんてゆう物はありません。それから家にはぢよちうがないので私が學校からかへるとおかあさんのおてつだひをします。

ぢしん

京橋區　築地尋常小學校
第二學年　鈴木淳夫

九月一日のぢしんでぼくの內はたいへんにいたみました。たんすの上にあつたおにんぎやうもおちて、かべも大へんふるつてしまひました。その時ぼくはすぐ外へとびだしました。そのうちにきんじよの人たちがつなみがくるといつたので、おどろいてたつたらそれはやじんまでした。そのうちにしんとみ町の方からぼうぼうと黒けむりがみえました。

ぢしん

京橋區　築地尋常小學校
第二學年　檜田文子

私が三のまきの本をかひにいつてかへるときでんしやみちであるいていたら大ぢしんがありました。そうしてでんしやみちにたつてゐたら、内の人がむかひにきて大どほりにつれていつてくれました。そのときうちへはいつて見たらかゞみがたふれてゐました。さうしてまたそとへでようとしたら、おもての四けんながやがつぶれてゐました。大そうこはいぢしんでした。

僕たちの机

京橋區　月島尋常小學校
第二學年　青木一英

僕たちの學校はバラックですからいろいろのおどうぐなど一つもありません。たゞアンペラの上にすわつてお話もきゝ本をよんだり書いたりしてゐました。

だから長いあいだには足のうらがチクチクするし、しびれもきれます。ずいぶんふじゆうでした。其のうちに先生方がシヤツ一つになつてトントコ、トントコ毎日大工さんをはじめました「へんだなあ」何が出來るのだろうと思ひました。あくる日學校へ行つた時びつくりしました。はじめは六年生の人たちばかりでしたが其のうちに僕たちの方へも一つ一つ下さいました。僕たちはこの机はりつぱな机よりもづつとだいじにしなければならないと思つて居ます。

このごろの私のうち

京橋區　月島尋常小學校
第二學年女　榊原ふじ子

私はあの九月一日の大ぢしんのあとでつなみがくるといふのですぐに家の人たちと舟でにげました。よるになるととうとう火じになりましたので家の小舟でおはまごてんへにげて行きました。四日にはじめ

てをかへあがつて見ると家は一けんものこつて居ません。私の家もやけてしまひましたのですぐにお父さんがバラックをこしらへて今其の家にすんで居ます。風の吹く日などずゐぶんさむうございますがお父さんやお母さんがあたゝかくして下さるのであまりさむいとも思ひません。

ぢしん前までは家の前によみせが出ましたが今は夜になつてもさびしゆうございます。私の家の人はみんなで八人でしたが大きい兄さんは一月十日にへいたいに行きましたので今は七人です。つぎの兄さんはかい軍に行つて居ります。大きいねえさんはおはりをして居ます。六年のねえさんと小さい四年の兄さんと私とは毎日學校に通つて居ります。お父さんとお母さんは兄さんが居ないのですみをはいたつして居ります。

九月一日

京橋區　南槇町尋常小學校
第二學年男　鈴木敏雄

學校からかへつておひるごはんをいたゞき二かいであそんでゐましたら、きうにがた〳〵とゆすれて來ました。はじめはじどう車のやうだと、話して居りましたが、だん〳〵強くゆすれて來ました。おくのにかいから大きい、兄さんが來て、おどろいてゐた、私とねえさんをだいてくれました。

お父さんは心ぱいして大きなこゑで、早く下へおいでと申しましたかべのどろけむりでなか〳〵下りられませんでした。地しんのやむのを待つて私は、おぶさつて下りてから、ねえさんがあとから下りてきました、下りてすぐ外へ出ました。其の內に又大きな地しんが來ました私たちはこはくて大きい兄さんにかじりつきました。地しんはやみ

した、たくさんの家がつぶれ人が死んだので、一そうこはくなりました、すぐそばのぎんかうもつぶれました。おけ町のかどの三階もつぶされ人が死んだときゝました。私の家のうしろのどぞうもくずれたのでうらはつぶれてしまいました。その時ほんとうにかなしうございました。夜の九時頃には、家もどぞうも皆、やけてしまひました。去年の九月一日のことを、思ひ出しますと、今でもこはくてなりません。

去年の大地しん

京橋區　南槇町尋常小學校
第二學年女　大西綾子

去年の大地しんの事を思ひ出すと、こはくなります。

あの、こはい、地しんは、九月一日のおひるごろで、私が學校からかへつたら、すぐでした。ごろ〳〵とへんな音がしてきたかと思ふと大きな地しんになりました。うちはめり〳〵と今にもつぶされさうになるし、やねからはかはらがおちてきますので、外へもにげられませんでした。私の內はつぶれなかつたので、うち中の人は一人もけがもしませんでした。家がつぶれたため、けがをしたり、なくなつた方もたくさんありました。おとうさんやおかあさんになくなられて、さびしくてこまつてゐる私ぐらいの子供も、たくさん居りますから、それを見るたびに、私に手ぶくろやゐりまきがあつたら、こしらへてあげやうと思ひますが、まだそんなむづかしいものはできないのであげることができません。

大しんさい

京橋區　明石尋常小學校
第二學年男　的場政夫

大正十二年九月一日の日にぼくが學校へいつてしきがすんでからうちへかへつてきました。

それからうちできりがみをしてゐますとむくむくとじがもちあがつてきてきふにがらがらびしやんとみせのかんやびんは一たばづつおちてきました。そしてかまではしやうどくをしてゐましたからばけつに水をくんでかまの火をけしてしまひました。するとぼくのいもうとがゐませんからにかいへあがつて見ましたがゐません。するとにかいからさだざんがおりてきてそとへとびだそうとしましたから父が手をつかんではなしませんでした。いもうとはそとでにいさんがつれてゐました。それからそとへ出て見るとうちのどぶ石がおちてゐました。うちのまへはじがすこしわれてゐました。それからうちからちちをもつてきて皆さんにわけてあげましたそのちじしんが十一ぺんばかりありましたまもなくかじだといふさはぎになりましたけれどもきんじよの人人はこの入舟町はどんなことでもやけないといつてゐましたそのうちに火につつまれてきました。そのときはそらがまつかになつてゐました。私たちは明石町の一ばんちににげましたするとまた一ばんかんの方へ方へと火がちかよつて來るのでまた一ばんかんを出て今度はまるのうちへにげました。丸の内へはいるときはまるでありがたかつたやうに人ごみでした。その時は晩の八時でした。まるのうちへはいると、きふにおなかがすいてしまひました、するとそばにゐた人がしんせつににぎりめしを下さいました。父はたべものをしんぱいしてとほくの方へさがしにいきました。まもなく父はたべものをもつてきました。父母はもう二時ごろだらふとおもつてとけいを見ましたら十二時でした。夜のあけるのが大そうまちどうでした。まるのうちを出てこうじ町のしんるいのうちへゆきましたがこうじ町でも火がちかいのでにもつをよういしてありました。まるのうちにゐたときはきました。またそこを出て今度は大久保へいたが大久保へいつてからはじめてしりました。にいさんもぼくもみんなこはくてぢしんでねました。よるはでんきがつきませんからろうそくをつけておきておりました。それから五六日たつてでんきがつきま

した。そのときはでんきがめづらしうございました。今度はやけた方へいへをたてるのでしぶやにいつていへのたつまでまつてゐました。ところがみんながこして來るとせまいのでまたそのうちをこわしてまたひらやを立てました。ひらやが立つたからぼくや母やぼくのいもうとと三人だけはしやうせんでんしやにのつてさきへやけた方へきましたた。父とさださんはにもつをもつて來るのですからぼくたちよりもあとからきました。ぼくがやけた方へきたときはここは入舟町かなあとおもひました。

大正十二年九月一日の大ぢしんと大かじ

京橋區　明石尋常小學校

第二學年　山本久子

どんうつすこしまへどしんばたんと大きなじしんがきました。うちへはいらうと思つてもあんまりどびんのかけらがおちたりびんがかけたりしてはいれません。うちはなんともなかつたがただすみがおつこちてがらすが一まいかけただけです。じしんがやんでからうちでは皆のこらずぞうきんがけをしてしまひました。それからごはんをたべてゐるうちに南の方からむくむくとけむりが立ちあがつてきました。うちのおとうさんはまあやけないからださなくともいいあとしまつにわるいからといつてなかなか出しません。そのうちにきかいせんのせん長がきてなんでもいいから出しなさいといひましたからおにいさんがいいものだけ出しませうといひましたからもしやけたらいけないと思つておとうさんもそんなら出しませうといつてたんすにあるのをこりにあけていいもんだけ舟にのせました。私と喜久子おねえさんと美智子おねえさんときかいせんにのりました。おとうさんとおにいさんは明石町へにげました。それからだんだん火が本みなと町へもえてきました。私はあつくてしようがありません。

おはまりきうへいかうと思つて舟をいかせませうと思つてもあつちからもこつちからも舟が來てたたみのやうにならびつづいて出られません。もうあのかじがこゝまできたら私や大ぜいのかたがたはどこにもにげやうがありません。といつてせん長は大へんなものですからふねにのつてゐる人に早くいかりをきつてしまひなさいといつたので皆なつきりばうちやうをもつてこつんこつんやつてとうとうきつてしまひました。そのあひだにはなく人もありしんぱいする人もありました。それからあぶらを入れてぱつぱつとはしり出しました。その時のうれしさはなんともいえないほどでありました。それからはしつておはまりきうへつきました。その晩は一ねむりしてあくる日の朝はもうあぶらはなくなつてしまひました。そのうちの一人がやけたあとのじどうしやへいつてかんを一かんかつてきました。それでさとうこの前へに舟がつきました。私はおねえさんやおとうさんやおにいさんがゐませんから喜久子おねえさんと美智子おねえさんだちとおとうさんおにいさんおねえさんといつて大きなこゑでよびました。するとその中でふねの人がその人のなまいをよびなさいといひましたから私はぎすけとうさんといひましたらおねえさんがきて下さいましたからわかりました。おそのおねえさんとにいさんがきて大正十二年の大じしんと大かじは大へんに大きかつた。それでしんだ人もたくさんあります。ごはんがたべられないでつながつておむすびをもらつた人もありました。このじしんと大かじは私たちがおばあさんになるまでわすれないでせう。

うちの小鳥

京橋區　越前堀尋常小學校
第二學年男　姉　川　金　次

私のうちに小鳥が五羽ゐました。
その小鳥のなまへは、めじろに、ひばりに、ほうじろに、べにすゞ

めに、もう一ぴきのなはしりません。
ひばりはたいそうなれてゐますから、にげません。僕がゑさをすつてめじろにやりますと、ひばりはゑをたべたがつて、きよろきよろしてゐます。
僕はゑがなくなると、えいたいばしのむかうまでかいにゐきます。お父さんは小鳥がすきなのでたくさん小鳥をかつてゐます
かじの時にも出しましたがゐがないのでかはいさうにみんなしんでしまひました。

學校

京橋區　越前堀尋常小學校
第二學年女　山形ゆき子

私たちは今日からあたらしい學校でべんきやうして居ます。
私たちの學校はこんどあかるくて廣くて一つのこしかけへ二人なぞこしかけなくても一人でらくらくこしかけられるやうになりました。そしてとなりのくみでがやがやしてもちつともきこえません。それでもとの學校では先生が大きなこゑでお話をしてもまだうしろの方の人がきこえなかつたりしましたが今ではそんな大きなこゑをするとおかしいくらいしんとしてゐます。私たちはそのしづかなきやうしつでしかりべんきやうするつもりです。

ヂシントクワジ

京橋區　月島第二尋常小學校
第二學年男　三堀重光

私タチガゴハンヲイタヾイテヰマストガタ〳〵トユレダシマシタ。ソラジシンダトサワギダシテ外ヘデテヰマシタラ、クワヂガオコツテ方々ノ家ハハイニナツテシマイマシタ。私ハオトウサンヤオカアサント三ゴウチヘニゲテテツカンノ中ニヰマシタ。夜ニナルト空ガマツカ

ニナツテ火ノコガトンデクルノヲ見テネマシタ。アシタニナルトオナカガスイテタマリマセンデシタカラ、コーリヲタベテヰマシタ。

三日ニナツテ二號地ニ家ガデキマシタノデソコヘヒツコシマシタガ時々ヂシンガクルノデチヤウシヘニゲテイキマシタ。

六ヂシン

京橋區　月島第二尋常小學校

第二學年女　小瀧トキ子

ソノ日ハイツモヨリ早ク學校カラカヘツテキマシタ。キユウニ家ガガタ〳〵トユレダシテタナノモノガオチマシタ。

ヂシン〳〵トイツテオ母サンハムリニ私ヲツレテ外ヘデマシタ。六時頃モンゼキサママデニゲマシタガソレカラサキハ一面ノ火デモウサキヘイクコトガデキマセンデシタ。サカヘバシノウヘデコマツテヰマストスオマハリサンガキテ舟ニノセテクダサイマシタ。ソコデ一晩中水ヲカブリマシタ。アシタニナツテヤツトハタガヤヘニゲテイキマシタ。

大地しんのときには

京橋區　京橋尋常小學校

第二學年男　尾崎勝治郎

私は學校からかへつてくると少したつとぢしんがきました。私はおどろいて外へとびだした川のふちに、ゆうがたまでうちの人がみんなでゐました。ゆふがたになるとしん橋の方がさかんにやけてゐます。これは大へんだといふので丸のうちへにげました。そうすると一めんにやけてゐます。もう私のうちは、やけちやつたさうです。丸の内に三日のおひるごろまでゐました。

三日のおひるごろ中野のしよくから九日の朝ばりきにのつて、しばへ行まくてせまくてはいれませんから

きました。しばへきてからやつとあんしんしました。

大ヂシンノ時ニハ

京橋區　京橋尋常小學校
第二學年女　長島かつ子

九月一日ハ朝ハ大雨デシタガダンダンヨイオ天氣ニナリマシタ。ウチノ人タチガ今日ハ二百十日デスカライヤナコトガナケレバヨイトイツテイマシタ。オヒルゴロ、エヲミテイルトガタガタユレ出シマシタ。キマシタ。コレハ大ヘント思ツテネエサント二人デ、ハダシデ外エトビダシマシタ。外ニハ私ヨリ先ニデテイタ人ガイクラモアリマシタ。ソノ中ニハモウナイテイル人モアレバ、オキヨウヲヨンデイル人モアリマシタ。一度目ノジシンデ屋根ノカハラノ、オチタウチモアレバ、ツブレタウチモタクサンアリマシタ。

アンナコハイコトハイママデニアリマセンデシタ。

今の東京

京橋區　文海尋常小學校
第二學年　大崎三雄

こわい大火さいにあつたこの東京は、いかにもさびしい東京となりました。

私はこれからさきどうしたらもとの東京になろうかと思ひますけれ共私が大きくなる中にはこの東京がだんだんひらけてくるかと思ひます。

町のやうすはじしんからのちはだいぶんひらけてきたように思われます。けれ共まだもとの東京にはなりません。

私はなるだけはやくもとの東京にしたいと思います。

やけあと

京橋區　文海尋常小學校
第二學年女　加藤泰子

私はお父さんと、お母さんと、おとをとと四人でやけあとへ行ました。やけあとには、せともののやかなものやおはしがありました。私が七ツから大ぢにしてゐただいすきなおちやわんが、ひび一つもいつてゐませんでした。おとうとのじどうしやも少しのこつてゐました。おとうとは私にあんな大火事によくのこつたといつてよろこびました。

大ぢしんの日

京橋區　佃島尋常小學校
第二學年男　增田耕司

九月一日はあつい日でありました。この日は土曜で學校ははん日でした。僕が學校からかへつてきてごはんをたべようとすると大きなうごきがしました。すると人たちが方方にかぢがあるといつてゐなりがしました。するとすぐじしんだ〳〵といふうちに家がぐら〳〵ぼんやりしてゐました。そのうちに風がひどくなつて、だん〳〵かじが大きくなつておもてにゐても立つてゐることができません。僕はおどろいてただ一日の夕方には東京中の大かじとなりました。そのうちに僕の家の方に、火がつきましたから、家のものがにもつを車につんでにげましが車に火がつくのでからだゞけにげました。

大じしんのあと、僕たちはやけたあとへ、にげてゐましたがあつくてたまりません。はやくよがあけたらよいとまつてゐました。そのうちに火がきえてよがあけましたが、おなかがすいてもたべるものはなんにもありませんでした。がまんするだけがまんしてゐるうちに、へいたいさんがお米をくれましたの

て、ごはんをたべることが出來ました。

四日目の朝いなかのおぢさんがきたので、みなかへ行きました。行く道で死んだ人をたくさんみました。

僕はいなかの學校に一月ほどゐました。そしてかへつてきましたが家がたくさんできてゐるのにおどろきました。

新らしいお机

京橋區　佃島尋常小學校

第二學年女　石川京子

ぢしんと、火事でがくかうも、お机もみんなやけてしまひました。私たちは先生と一所にはじめは机もなくて天との中でべんきようしてゐましたが、このほどバラックが立つたので机もいすも來ました。私たちは机が來たのでらく〳〵とべんきようが出來ますからほんとうにべんきようしたい樣な氣がします。いつか先生が「このお机と同樣に新しい心になつてべんきやうしませう。」とおつしやいました。私はおぎへはいるたびにそのことをおもいだします。

ユフガタ

芝區　鞆繪尋常小學校

第二學年男　渡邊洋

ボクハアソビアキテ、ウチヘカヘロウトオモツテ、西ノソラヲミルト、日ハシヅミサウニナツテイマシタ。ソラハアカイトコロヤキイロイトコロナドアツテソレハソレハキレイデシタ。デンシヤドーリヲミルト、ドノデンシヤニモ人ガブラサガツテイマス。

オトナノ人ハミナイソガシサウニトホリスギテユキマス。

オトウフヤサンハ、プープー、トラツパヲナラシテユキマス。トウ〳〵日ハカクレテシマイマシタ。サムイカゼニ、オモワズクビヲチヂメマシタ。

子ねこ

芝區　鞆繪尋常小學校
第二學年女　川本博子

私は子ねこが大すきです。
私のうちには、子ねこがゐませんが、おとなりのうちにかわいいトラといふ子ねこがゐました。
私はそのねこをかわいがつてやりますので、私によくなついて私がトラちやんと呼びますと、にやあんといつて私のひざの上へきます。
今朝、私がおとなりへあそびにまゐりますと、にやあんといつて來ましたから、花まりをなげてやりますと、ねずみをねろう樣な目でこたつの處へかくれてゐました。そのうちに、ぽんと飛出して來てまりをころがしたり、じやれついたり、しました。私はそれを見てずいぶんかわいくおもいました。

さむい夜

芝區　御田尋常小學校
第二學年男　原田清五郎

「おゝさむい」
おつかいに行かうと思つて外へ出ると、さむい風が土といつしよに飛んできて、とばされさうになりました。
お月樣はどこへやらたゞまつくら。すーとあかるくなつたと思つたらぶーぶーとじどうしやがおどかしながらぼくにほこりをいつぱいひつかけてとんでゆきました。
いぢのわるい自動車だなー。どこのうちでももうさむいのでおほかた戸をしめてしまゐました。
きゆうに足の下で「ざくざく」と音がしました。まいた水がもうこほつたのでせう。

それでもおもて通へでるとあかるくて、でんしやも人もいきほいよく歩いてゐてにぎやかです。

おつかいがすむとかけあしでかへりました。

そのばんはまつたくさむいばんでしたから、ぼくはやけだされた人のことがおもひだされてなりませんでした。

バラックは一まいいたで、すきまから風がとほるので、たいへんさむいといふことをおとうさんからききました。

こんやのやうなさむいばんには、おうちをやかれたおともだちはどうしてゐることでせう。

じやがいも

芝區　御田尋常小學校

第二學年男　花田キヌエ

ことことこと音がするのでそいてみたら
おなべの中でじやがいもが
手に手をとつてをどつてた

大ぢしん

芝區　櫻川尋常小學校

第二學年男　上杉武雄

ぼくは九月一日にちようどびやうきでした。十二時ごろよそからおきやくさんがいらつしやいました。お母さんはおきやくさんとこれでおわかれになりますといひました。お母さんもおきやくさんもお父さんにいさんねえさんもいもうともぼくもおじぎをしました。その時お父さんが十二時といひましたからお母さんがごはんにしやうといひました。するとそこへ大ぢしんが來ましたみんなはおどろいて外にでました。その時ぼくはまだ病氣でしたか

ら、まだうまくはあるけませんでした。そうすると、お母さんが「ねえさん武雄をおぶつてやんな」といひました。ねえさんは「はい」とへんじをして、ぼくをおぶつてくれました。またゆりかいしが來ました。するとむかうがはのますざはさんのうちがつぶれました。そのうちにぢしんはやみしました。またちいさいぢしんがちよいちよいゆれました。そのうちにばんになりました。ばんになるとどつかからかじがはじまりました。みんなは、ここはやけないといひましたからみんなはあんしんしておもてにゐました。そのうちにだれかがまたどつちかへかじにしました。

みんなはあんしんしてゐたからなんにもだしません。そしてみんなはせきじゆうじにげました。またただれかがうらもんにひをつけました。それでせきじゆうじはやけました。それからまたにげてゐきました。そうするとお父さんは赤さかへいかうといひした。そしてみんなはゆきました。

私のうちのきんじよ

芝區　櫻川尋常小學校　第二學年女　下村春子

私のうちのきんじよはもうばらつくがずいぶんたつてゐます。うちのまへのおうちは今かべをぬつてゐます。あちらでもとんとんこちらでもとんとんと、だいくさんがうちをこしらへてゐます。うちのうらもこしらへてゐましたが、私がしらないでいましたらすつかりできあがりました。たくさんたつたのでやけない所とおなじやうになりました。どこを見てもあたらしいおうちばかりです。きんじよの方もすこしかはりました。宮田さんが私のおともだちです。私のうちのうらは三げんたたないだけであとみんなたちました。早く元のやうにきんじよがにぎやかになればよいと思ひます。

豆まき

芝區　南海尋常小學校
第二學年男　田中龍雄

きのふの朝ごはんを食べてゐますと、おばさんが豆をいつてゐましたから、私は今日は豆まきかとよろこびました。神樣にあげてから少し豆をたべました、學校からかへつてから夜になつて豆を早くまかうとすると、お母さんが六時にまくのですといつたので時計ばかり見てゐました。六時になつてから僕が豆をまきました。内の方を向いてまきました。それから自分の年だけたべました。外へ向いておには外とまきました。ぼくとおとうとと年が少いのに年よりもたくさん食べましたら、お母さんが、そんなに食べるとおちいさんになると、云つて大わらいしました。

私のおひな樣

芝區　南海尋常小學校
第二學年女　水野はな子

私はおひな樣をぢしんの時においてにげましたから、どこかこはれてゐるでせう。今度かざつた時に見て、おひな樣のお菓子や色々なものを買つてかざつてあげます。

私のにんぎやう

芝區　白金尋常小學校
第二學年女　岡田克子（十才）

私の所へ、こなひだあめりかから、たのしい物がまゐりました。うれしくてたまりませんから、あけて見ると、私と私のおねえ樣のにんぎやうのぼうしが、中にはいつてゐました。私はかはいくてたまりま

せんから、さつそくおにんぎやうにかぶせてあげました。二人のにんぎやうには、あたまがちやうどあひました。私は今日學校へ行くと、あんまりおにんぎやうさんがかはいいので、學校へつれていきたかつたのです。學校から、かへつて見ると、ぴやののおけいこをせねばなりませんがおにんぎやうがかはいくてなりませんから、ぴやののおけいこがうまくできないのでした。

今日の風

芝區　白金尋常小學校
第二學年男　馬場邦彦（九才）

朝おきて見ると風がふいてゐました。少し行くとへいはきがつきませんでした。家を出てから紙をはんぶんとばして見ると二かいのやねの上まで、とんでしまひました。五たんだのていしやばを少し行くとへいや、べんじよがたほれてゐました。少し行くと、やけいごやがたほれてゐました。ぼくはこはくて、なかなか、とほれまが一まいとんでしまいました。ぼくはこはくて、なかなか、とほれませんでした。ぼくといつしよに來た、五年の人がとほりました。ぼくはその間にかけていきました。ぼくといつしよに來た五年の人はこんな風ならこなかつた方がいいといひました。にいさんはずいぶんけつせきが多いだらうといひました。ぼくはこの風におどろいてしまひました。

おてがみ

芝區　南櫻尋常小學校
第二學年男　綠川治男

けふ、學校がおひつこしをしました。
むかふの學校よりも、さむいバラックです。
はうばうのすきまから、さむい風がはいります。天じようがないから

雨のふる日には、うるさいですね。
でも、おあそび時間にダンスをします。みんながあばれたりダンスをしたりすると、グラグラします。
それでも、みんなは、一生けんめいに、べんきようしてゐます。

私の家

芝區　南櫻尋常小學校
第二學年女　駒井ミヤ子

私の家は、バラツクです。バラツクができないときは早くバラツクにゆきたいとおもひました。やつとバラツクにはいりました。その時はしようじも、はつてなかつたのです。ガラスも、はいつてなかつたのです。
さむくてたまりませんからきれをガラスのかわりにして、かけました。
あくる朝、おきて、かほをあらいにいつて、きれにさわつて見ますと、こほつてかたくなつてゐました。
今はガラスもしようじもできました。家中のものがはたらいて居ます。

せつぶんのよる

芝區　芝尋常小學校
第二學年男　會田博

ぼくはがくかうからかへつて少しあそびました。それから豆をいつてさましときました。そして夕はんをたべたぼくは外へ出てみる。そこゐらの内ではもう「ふくはうち〳〵おには外」と大きいこゑで云つてゐる。ぼくもうちへ來てまかうと思つていそいで内へきた。ますの中へまめを入れ神だなへそなへてからみんなでおがんでから「ふくはうち〳〵」とまきました。それからぼくはおい

なりさんへ行きました。もうそこにみんなはいつてゐた。ぼくはみんなと一つしよにおいなりさんの中でにしとひがしに別れてすまふをとつた。ぼくは西の方になつた。いよ〳〵一ばんはじめの人をよんだ。「西でぶとり山東こぶとり山」とよんだ。そしたら二人びよこんとたつた。ぎようじが「のこつた」と云ひました。二人はとりはじめた。ぼくたちは、はつきよひのこつたあと〳〵と云ふ。そしたらぎやうじがにはかに「しようぶわかつた。でぶとり山かち」と云つた。でぶとり山はよろこんだ。そのつぎはぼくと一郎さんととつた。ぼくはじゆうどうてころがされてしまつた。それからいろんなものをしてあそんでかへるときにおかしをもらつて内へかへつたのは十時であつた。

こばかつたぢしんとかぢ

芝區　芝尋常小學校

第二學年女　岡部みゑ

大正十二年九月一日おひるのごはんをいたゞく時でした。大きな音がしてたちまち大きなじしんになりました。私たちはあらつとさけびました。たなのものは皆おちて來ました。やつとおさまつた、と思ふと又、ゆれて來ました。あつちこつちではゆりかへしだゆりかへしだと大さわぎです。二度目のじしんがおさまるとかじだかじだと又も大さわぎです。もうたまりません。かじの所へぢしんですからもうにげばはありません。あはてゝにげてゐるまにおうちもとうとうやけてしまひました。

東京の街

芝區　西櫻尋常小學校

第二學年男　おくむらけん一

東京はこんなあはれな街になりました。ぼくらもあはれなばらつくにすんでをります。どこを見てもみんなばらつくです。ほんじやうふ

かがはよこはまなどは人が死んだり、やけ死んだりなにかしてみんなしんでしまひました。ぼくらだけこれでもたすかつた方です。ぼくはたすかつたからよろこびました。ぼくは前よりもりつぱな東京の街をつくろうと思ひます。

私の家

芝區　西櫻尋常小學校

第二學年女　かねだみな子

私の家はみんなで八人です。此のあいだの大かじで一人もしんだ人はありません。ばらつくは大そうさむうございます。そしてときどき大あらしがふくとうちの人々はうちをもつて行かれるかとしんぱいしてゐます。私はかばんをさげてにげるようゐをしてゐます。大かぜがふくとこはくございます。

ぼくの竹馬

芝區　臺町尋常小學校

宇佐川四郎(十才)

ぼくの竹馬は、せいすけといふぢいやに、こしらへてもらつたのです。

はじめはのれませんでしたが、今はもうよくのれます。けれどもはりがねがさがつてきますから、ときどきおちます。そのときには、すぐせいすけぢいやの、ところへ、もつてゐつて、なほしてもらいます。もうへいたいさんも、おまはりさんもできます。ぼくの竹馬は、のりいと、いふ人もありますが、けちな竹馬だといふ人もあります、又その竹馬は竹がいいといふ人もあります。ぼくはのりいいと思います。

この間にいさんがのつたので、こわれてしまゐましたぼくはかなしいので、「えーんえしん」となきました。

私のえいごの先生

芝區　臺町尋常小學校
川添賀美子（十才）

私のえいごの先生はミスホールと言います。

ミスホールは私が、ごてんばにいつてゐたころ、私の方からまゐりましたり、先生の方からおいでになつたりして、おしへて下さいました。

その先生はえいごばかりしか、知つていらつしやゐませんですから私におしへて下さる時も、えいごばかりではじめのうちは何もわかりませんでした、けれどもじきにわかるやうになりました。

ミスホールは今かまくらにゐますから、私はかまくらまで行かれないから今はならつてゐません。

ミスホールはよく私や私の弟をよくかわいがつて下さいますから、私は大すきです。

その先生は私どもの外にいろ〳〵な方をおしへてゐらつしやいました。

ミスホールは九月一日の大じしんの時、あめりかのお母さまから色色な物をおくつていただいたのを、じしんでいえがつぶれてたり、やけたりした方にお上げになりました。

私は大へんしんせつな方だと思います。

ミスホールの御國はアメリカです。

九月のぢしん

芝區　聖坂尋常小學校
第二學年男　清水豐男（十才）

がたがたとぢしんがきたので「あつ」ぢしんだと僕はお母さんにくつついた。お母さんはうちがつぶれるかもしれないおねんぶつをとなへておいでとおつしやつたのでぼくはなむあみだぶつとおねんぶつをと

なへた。ふと目をひらいておにはを見るともうもうとすなけむりが立つてゐた。やがてやんだのでうちのかはらがおちて居るかと思つてうちのやねを見ると一つもおちてゐない。どこのかわらがおちたのだらうとふとよこを見るととなりのかわらがないゝ何だとなりのかと思つてゐると、おとうさんがそこにゐちやあぶないとおつしやつたのでたんすの下へいつた。まもなくぢしんがやんだのでうれしいと思つた。

九月一日のぢしん

芝區　聖坂尋常小學校

第二學年女　浦口茂子（九才）

ああじしんだ、と私がおはしをなげだしてお母さんにかじりついたときにはもうぬりたてのかべはすつかりはがれて今までいたゞいたごはんはきなこをかけたやうになつてゐました。それから二どめのゆりかへしの時にはうちのおくらのかべは大きなおとをたてゝおちてきました。つづいてほうぼうのかべやかはらが、どんどんおちて家のつぶれた所もたくさんありました。はうばうからかじがおこつて東京中がもへて中でもひふくしやうではたくさんの人か死んでしまいました。このぢしんのために東京の人は思はぬひどいめにあひましたけれどもそのために食物もなくなりげんまいのごはんもいたゞきました。ぜいたくもしないやうになりました。そしていまではやけの原のたくさんのうちがならびました。ぢきもとどほりになるのでせう。私たちもぢしんにあつたときの事をいつまでもわすれずにゐてぜいたくをしないで今までよりももつとよい東京にし上げたいと思ひます。

豆まき

芝區　愛宕尋常小學校

第二學年男　戸板康二

今日は二月四日で御年こしです。ひるの中からお豆をいつておはち

に入れてしまつておきました。

晩になりました。

もうあちらの方から「おにはそとー、ふくは内」と聞えます。又こちらでも「おにはそと、ふくはうち天うつ地うつおにの目だまをぶつづふせー」と云ふこゑが聞えます。

うちでも僕が豆をもつて「おにはそとふくはうち」と云ひながら「ばらばら」とあつちへ行つたり、こつちへ来たり。

弟も「おもしろいノ〳〵」と言つてはまいたり豆をひろつては大よろこび。父「おもしろいネー、豆まきは」と父までふざけて居ます。

やがて僕は其の豆を食べて見たらおいしいので、ほつぺたがふくれてゐる　女中に「おいしいよ」と云つたら「おほゝゝ」とわらひました。

いてふの木

芝區　愛宕尋常小學校
第二學年女　井本アサ子

うちの前にはやけた大きないてふの木があります。

やけない前には秋になると、はが「ちらちら」とおちます。風のふく日にはよそのうちも私のうちも、き色なはだらけになります。

いてふの木の所に小さなお宮がたてゝあります。今もこの木にからすがとまつて「かあかあ」とないてゐます。

私はからすがくるとすぐに弟をだいて見せてやります。

うちのぶんぢやう

芝區　高輪尋常小學校
第二學年男　竹内久夫（十才）

去年の春お母さんが三越でぶんちやうを二匹買つてきました。そしてはと〳〵一しよにかごの中に入れて毎日えさをやつたり水を取りかへてやつたりしますとよろこびます。ぶんちやうは水の中にはいつて羽ばたきをします。それを見てゐるといかにもうれしさうです。かごをにはへだしておくとどこからかおなじぶんちやうがとんで來てかごの上にとまつていかにもかごの中には入たさうに見えます。そしてかごにとまつてゐるぶんちやうをとろをとするとどこかへ逃げてゐつて人がゐなくなると又とんできてかごにとまります。或日ぶんちようがかごの上にとまつてゐるとき、とうふやさんが來てそのぶんちようをとつてくれましたからそれをかごの中へいれておきました。するといつのまにかかわいさうにもしんでしまひました。

それからこないだの大雪のよくあさえさをやろうとおもつてかごの中を見ましたら二匹ともかたくなつて死んでゐました。あまりかわいさうなので、おにはの木のねもとにうめてやりました

雪のふるあさでしたからさむかつたのでせう。ほんとうにかわいさうなことをしました。はとはさぶしさうに一人でないてゐます。

私の家

芝區　高輪尋常小學校
第二學年女　池田稻子

私の家は北品川御殿山七三三です。家内は十人。朝はにいさんが一ばん早く家をでます。その次に私が學校に行きます。其の次にお父さんがおでかけになります、その次におとうさんのおみせは丸の内です。おぢいさんがお出かけになります。お母さんはおしごとをしてゐます。おぢいさんのおみせも丸の内です。

私の家にはおにはがあつて色々の木もありますから春になれば家の中でもおはなみが出來夏になれば水まきをするからうんどうにもなります。秋はもみぢのかうだしうつくしさを毎日見ました。冬は雪がふ

つた時のけしきはなんともいひようがありません。私は一年中おもしろくゐられます。

てうせんからかへる時のこと

芝區　神明尋常小學校　第二學年男　松田願

ぼくが、てうせんからかへるときに、晩のやこうにのつてかへりました。

けいじやうでのりかへました。さうしてきゆうこうにのつてふざんでれんらくせんにのりましたら、たばこがたくさんつくえの上にのせてありました。それでぼくはそばへゆきますとたばこは有りませんかといひましたから、ぼくはありませんといひますと、それならよいです、といひました。それでぼくは、もじでおりてきしやにのり、とうきようにきました。

おひなさま

芝區　神明尋常小學校　第二學年女　小山しず

三月三日のおせつくには、いつもおかあさんとねえさんとでひなだんをつくつて、一ばん上のだんには、だいり様、次にはかん女、五人ばやしとならべます。うしろにはおびやうぶをたてまわし、しよくだいをおきます。下のだんには、いろ〳〵のおどうぐをならべてねえさんは桃の花をいけて下さいます。

そうして、お白酒や、ひしもちや、色色のおかしをそなへます。こうして皆んなでたのしくあそぶのですが、今年はそのおひな様も、みんなやけてしまつたので、かざれなくなりました。私はほんとうにおしい事をしました。しかしおひな様はなくても私たちはみんな、そろうてにぎやかにあそぼうとたのしんでおせつくをまつてゐます。

わたしのひなさま
よいおひなさま
それもとうとうやけちやつた
わたしはほんとにかなしいな
だけどこれからせいだして
しんきにつくつてかざりませう
わたしはほんとにうれしいな
おひなさま
わたしのすきなおひなさま
だいりさまやかんじよたち
もものせつくのおいはひに
色色ごちそうあげませう
はやくこいこいひなまつり

ゆきの朝

芝區　神應尋常小學校
第二學年男　指山達義

「達義雪だよ早く起きてごらん。」とお母さんにゆりおこされて、えんがはに出て見たすると外は一めんまつ白だ。お父さまからいたゞいたぼくのどむは雪につぶされてしまつた。内のまつの木はわたをのせたやうにきれいだ。おけいちやんのうちのかれた木は花がさいたやうだやつでにつもつたゆきがぱら〳〵とおちて白いけむりが立つた。

そこへうたちやんがとんで來た。うたちやんは手をうつてよろこんでゐる。ぼくはうたちやんとゆきなげをしてあそんだ。

私のおぢいさん

芝區　神應尋常小學校
第二學年女　中島壽美江

私のおぢいさんは今年六十八で、目がわるいけれどもなか〳〵じよ
うぶです。そして神樣をおがむのが大すきです。それからおこごとを
言ふことが大すきです。それですから内の人が皆おぢいさんをこわが
ります。けれども私は少しもこわくはありません。
それは私がべんきやうするからです。
べんきやうさへしてゐればいつもにこ〳〵しておいしいおくわしや
何かをきつと下さいます。
私はおぢいさんが大すきで時々かたをたゝいてあげます。

マント

芝區　芝浦尋常小學校
第二學年男　眞野政行

大阪からマントをおくつてくれたのでうれしうございます。お母さ
んもよろこんでゐます。よそへ行くときも學校へ行くときにもきつと
マントをきます。學校からもらつた日、白がねのおばさんのうちへみ
せにいきましたらおばさんが「おまへのうちではお父さんがいないか
らなか〳〵買へないからだいじにしなさい」とおつしやいました。

マント

芝區　芝浦尋常小學校
第二學年女　山東ハツヱ

わたしのマントは

よいマント

色はくさいろ
　あつたかで
雨のふる日も
　雪の日も
かさのかはりに
　あたまから
かぶつて學校へ。
　まゐります

大ぢしん

麻布區　麻布尋常小學校
第二學年男　加藤富三

大正十二年九月一日のことでした。ちやうど十二時でぼくがおひるのごはんをいただかうとしたら、きうに內がみちりがたがたとうごきはがらがらとおちる。ぼくはあはててお母さんにだきつきました。それからあんまりひどいので外へ出ました。ぞつとしてみのけがよだつやうでした。そのでんぐがたふれました。すぐ向ふのおそばやとびるやわんはかちやかちやとゆれ、たなの物晩はうらのおてらのにはへねましたが、どうしてもねむれません。あちらこちらの火じはだんだん大きくなつて、東の天はまつかになつて見えます。だんだん火がちかくなつて來るのでぼくの內もやけるだらうと思ひました。おかげで風が東の方へふいたのでたすかりました。二日の朝になつてやうやく火がしづまりました。その晩は又〇〇〇〇がこはくてねむれませんでした。この火じでは、あさくさや、日本ばしやぎんざの方は皆やけてしまひました。死んだ人がいくまん人と言ふほどであつたさうです。おやおやきやうだいが死んで、かはいさうな人がたくさんあります。ぼくはなみだが出ました。お母さんが「元の東京になるのは三十年ぐらいたたなければならない」と言ひました。

私の町の朝

麻布區　麻布尋常小學校
第二學年女　横山享子

日がでました。方々のおやしきではご門をあけたりじどう車のさうじをしたりおにはをはいたり水をまいたりしてゐます。おとうふやさんはらつぱをふきながらうりにきます。ぎゆうにゆう屋さんもとほります。しんぶんはいたつはげんきに走つてゐます。うちの前をしよく人やこうばにつとめる女の人がたくさんさむそうに通ります。かいしややおやくしよにつとめる人がじてん車にのつたりおうとばいにのつたりじどう車にのつたりしてたくさんとほります。に車にいもだわらをつんでとほる人もあります。

霞ノ朝

麻布區　南山尋常小學校
第二學年男　高須一郎(十才)

今朝ハ大ヘンアタタカデス。ボクハエンガハニ立ツテ、方々ヲナガメテヰルトナントモ言ヘナイヨイ氣モチニナツテキマシタ。

御クワシヤノエントツモ、向フノ屋根モ、庭ノウエ木モ皆ボーツトシテ、マルデ床ノ間ニカケテアルスミエニソツクリデス。三レン隊ノ兵タイサンモ、起キタラシイ。ラツパノ音ガイサマシクキコエテ來マシタ。

青イ山ガ見エルカラ向フガ青山デ霞ガ立ツカラココハ霞町ト言フノカシラ。ボクノ大好ナ霞ヨ。毎朝毎朝ウチノオ庭ニ立ツテクレ。

おむかへ

麻布區　南山尋常小學校
第二學年女　藏　川　ミ　ヨ(十才)

おばあさまと、いもうとが、かうべに行つてゐて、今日かへるさうです。

私は、おむかへに、行きたいのですが、學校がありますのでいけません。ですから、かへりのたのしみにしてゐます。

私が學校に、くる時、おかあさまと、いもうとと、おむかへに行きました。

きしやは朝の九時半ごろ、東京えきに、つくのださうです。

私は、いもうとが、あんまり、むかへに、いくといふので、にくらしくなりました。

私は、學校へきても、その、にくらしかつたのを、わすれません。

やけでんしや

麻布區　飯倉尋常小學校
第二學年男　佐　藤　吉　郎(十才)

九月一日の
　おほ　かじ　で
でんしやがやけて
　まる　はだか
雪の　ふる日は
　さむい　でせう
今に　きものが
　できる　だらう
そしたら　はしつて
　行きなさい

ぢしん

麻布區　飯倉尋常小學校
第二學年女　谷川しづよ(十年)

1、ゆらゆらみしみしがあらがら
そうらぢしんだにいげろ〳〵
そうれかはらがおちてくる
あぶないあぶないこつちへにげろ
ゆらゆらみしみしがあらがら
2、そうらこんどはあつちへにげろ
どこでもどこでもおほさはぎ
まあたゆらゆれだした
ゆらゆらみしみしがあらがら
やあまへにげろありまのはらへ

ゆらゆらみしみしがあらがら

バラック

麻布區　三河臺尋常小學校
第二學年男　西山安男

ボクハ、ヨクオ母サンカラバラックノオハナシヲキキマシタ。ソシテ、ソンナニタベル物ヤ、子ドモタチノオクワシナンカガ、ナクテコマツテヰルノナラ、ボクノ毎日タベルオクワシヲスコシヘラシテ、カワイソウナ子ニ、ヤリタイト思ヒマシタ。ケレド、コノアイダ日比谷ノバラツクヲ見ニイツタ時ニハ、モウ、ソンナニタベ物ニコマツテハヰナイヤウデス、ケレドモ、ボクハ、バラツクハ、ズイブン、サムイダロウト思ヒマシタ。
ミンナ着物ヤナンカモ、ヤケテシマツタノデ、コノゴロデハズイブンカゼヲヒイテ苦シンデヰル人ガ、タクサンニアルサウデス。

ボクガ、イツタトキニハ、ドコカノオヂサンダカ、キレイナアカイ紙ノハタヲタクサンニモツテキテ、小サイ子ドモニ、ヤツテヰマシタ。皆ナ、ヨロコンデ、モツテカケテカヘリマス。ボクモ、ハタヲ皆ナニアゲタイト思ヒマシタ。

バラツクノ中ニハ、ヤホヤモ、カミドコヤモ、オユヤモ。タベ物ヤモ、イロイロタクサンニナランデヰマス。

モシアノカヂヤ、地震ガナカツタナラバ、コンナセマイ、サムイトコロニ、ミンナスマナクツテモヰラレタノニ、ウチノヤケタ人ハホントウニキノドクデス。

ボクハ、ウチモヤケナイシ、ウチモツブレナカツタノデ、バラツクニモスマナイデ、コウヤツテマイニチ、オモシロク學校へ行クコトガデキルノダト、オ母サンカラキイテ、ホントウニウレシク思ヒマシタ。

だいじな梅の花

麻布區　三河臺尋常小學校
第二學年女　井林鈴子

春のことでした。私が、お父さんにおえんにちにつれていつていただいた時、花やがありました。その時、きれいなうめの花が目につきましたので買つていただきました。それで家へもつて來ました。次の朝からおえんがわに出して、お水をやつたり、ほかの草をうえたり、又べんきやうする時はおつくゑの上にのせてします。色は白です。うえきばちも白です。學校に行く時はおえんがわにかざつておきました。

或日、私は學校にゐましたから、しりませんでした。學校からかへつてきて梅のことを思ひ出して、おにはに行つて見るとありません。私はふしぎに思つて「あら梅の花がないわ。」といひますと「それはひで子さんがこはしてしまひました。」とおねえさんがおつしやいました。

私、なきたいほどかなしかつたですけれども「いもうとだからしかたがない」と思つて、私はそのわけをきいてすましてやりました。
私は今でもかなしくなることもあります。

をぢさんのめい日

麻布區　本村尋常小學校
第二學年男　生駒芳行

昨日はをぢさんのめい日です。ぶつだんには、をぢさんのおすきであつた、いろいろな物が、そなへてあります。花たてには、梅や、ねこやなぎが、さしてあります。をぢさんは私をたいへんにかはいがつてくださいましたから、をぢさんのことを、おもひ出すと、目からひとりでに、なみだがでます。まもなく夕方になつたのでらふそくをあげてせんこうをあげて、おがみました。それからねましたがをぢさんのことをおもひ出すとなかなかねむられませんでした。ゆめにもをぢさんのゆめを見ました。夜中に目がさめるとちようど十時がうちました。おきていつて見るとおかあさんやおばあさんはまだおきていらつしやいました。それから又をぢさんにせんこうをあげてねました。

赤ちやん

麻布區　本村尋常小學校
第二學年女　磯村美榮子

今まで「おぎやあおぎやあ……」となないてゐた赤ちやんはしんだいの上に一人でねてゐます。
私はだきたくなつてきましたが、おとすといけないと思つてやめときました。赤ちやんはおねえさまのにかいでおことをひいていらつしやるのがきこえてゐるのでせうか。すやすやと、きもちよさそうに目をつむつてゐます。
おとうとは赤ちやんのそばへ行くとすぐにかほをくつゝけます。お

かあさまがいけないとおつしやるとよけいにくつゝけるのでおかあさまがおしかりになります。おねえさまはおかあさまのいそがしいときおもりをしてゐらつしやいますし、おとうさんはかいしやの用でいそがしいから赤ちやんをあやしてあげることが少くなうございます。

ボクノヒカウキ

麻布區　笄尋常小學校
第二學年男　正木義雄

ボクハヒコウキガ大スキデス。ツクエノ上ニハイツモヒコウキガノツテヲリマス。

イツカオ友ダチト代々木ノハラヘトバシニ行キマシタ。ソノ日ハソラガハレテシヅカナ日デシタノデヨクトビマシタ。ウマクトンダトキニハ皆デトビハネテヨロコビマシタ。アマリトバシタノデプロペラーガスコシコハレタノデヨクトバナクナリマシタ。

コノヒコウキハオ母様ト青山ノ通リニ買物ニ行ツタ時ニオネダリシテ買ツテイタダイタノデス。

ホネグミニハハリガネデ組立テテアリマス。カーキー色ノハネヲヒロゲテゴムサヘマケバイツデモゲンキヨクトンデクレマス。

まめつたい弟

麻布區　笄尋常小學校
第二學年女組　小林よし子

私には弟が二人ありますが、一人は八つでもう一人は四つです。四つの弟は泰雄と言つて、まめつたくて少しも目がはなされません。お母様がおそうじをしてゐらしやると、ほうきをお馬にしてとびまはつたり、お米をといで水をながす時におけのしりをおすのでお米はこぼれ出てしまひます。

おしごとをしてゐらつしやると、そばに來て　糸やきれをちよきち

よききつてしまひます。それでゐて少しもわるいことを、したとは思はないのでせう。お母様のお手つだひをしたきになつて、とくいでゐます。そしておばあ様やお母様のおつしやつたことが、じぶんにわかれればよく言ふことをききますから、夜ばんのおちいさんも、八百屋のをばさんでも、「ぼつちやんぼつちやん」と云つて、かはいがつてくれます。私がべんきようをしてゐると「大きい姉ねべんきよう上ず」と言つてじぶんもゑ本をもつて來ます。お母様が「ごはんだからお姉ちやんやお兄ちやんをよんでいらつしやい」とおつしやると「まんまばくばくよつてこい」と言ひます。家中で一ばんおもしろい子です。

ぢしん

麻布區　麻中尋常小學校

第二學年男　溝口日出太

九月一日のひるごろ、大ぢしんがきました。

うちがぐらぐらゆれたので、ざしきのまんなかで、みんなかたまつてゐました。するとむかうのいへのかはらがばらばらおちてきましたあんまりぢしんがひどくなるので、とうとうおもてへにげだしましたはんぶんばかりつくつたものほしは、たふれませんでした。おもてへでてしばらくすると、すみやのをばさんがきておかしをくれましたが、こはくてたべられませんでした。私はおほどりでござをしいてゐました。

ばんもそこでねました。あつちからもこつちからも、かじがありました。私はこつちへもえてくるかとおもつて、くらいところをかばんだけもつてでました。

私のおとうさんはぎんかうへゐつてゐましたから、しんぱいでしたが、ぶじでかへつてゐらつしやいました。

そのときはほんとうにあんしんしました。

それからうちへなんどもかへつてみましたが、かべやがらすではい

れませんでした。私はよなかはこはくて、すこししかねませんでした
なんどもなんどもおどろかされました。それはゆめのやうでした。

山内さん

麻布區　麻中尋常小學校
第二學年女　高村住子

山内さんはしせいがよくて、目はぱつちりしていらつしやいます。
おかほはきれいでりんごのやうなほほをしていらつしやいます。そし
てからだはぢやうぶで、まだ學校は一日もおやすみをなさいません。
かみはおかつぱさんで、よこをひもで、ゆはいていらつしやいます。
ようふくはむらさき色のうすいのをきていらつしやいます。
又大そうやさしい所がありますす。それは學げいくわいの日でした。
その日私は少しきもちがわるかつたので、こまつてゐました。その時
山内さんは、てぬぐひを水でぬらして、ひやして下さいました。ほん
とにしんせつな方だと思ひました。

九月一日ノ大ヂシン

麻布區　東町尋常小學校
第二學年男　村上又男（九才）

ホクガアソンデヰルトナンダカカラダガユスレマシタ。
オモテドホリヲ見ルト、ヤネノカハラガオツコチマシタ。
内ヘカヘツテ見ルトカベノドロガオチテヰマス。
ソレカラノハラヘ、行ツテ見ルトノハラニタテテアツタ家モツブレ
テヰマシタ。
北ノ方ヲ見ルトカジノケムリガ、モヤモヤト上ツテ、スズメハケム
サウニシテニゲテキマシタ。
ソトヘ出テ見ルト北ノ方ハマツカニナツテヰマシタ。
テントノ中デカジヲナガメテヰルマニ夜ガアケマシタ。

ガケニノボツテ見ルトヤケタアトハケムリガ出テヰマシタ。
内ヘカヘツテ見ルト内ハマツクラニナツテドコニナニガアルノカワカリセン。

大じしん

麻布區　東町尋常小學校

第二學年女　竹内榮子(十才)

大正十二年九月一日十二時ごろ大じしんにてとうきやうのいへは大かたつぶれました。あちらこちら火じがおこりました。とうきやうのまちは大かたやけてはらになり又なんじゆうまんといふ人びとがやけしにました。わたくしはおとうさんやおかあさんとにはにむしろをひいて一しゆうかんほどそとでねました。そのときのこはさとあはれさをいまおもいだしてもからだがふるへます。おとうさんのおはなしにはせかいにもない大じしんといふことです。そのなかでわたくしはいへもたすかりいのちもたすかりこうふくとおもひます。ぢしんのことをかきのこしてのちのきねんといたします。

ヂシン

麻布區　絶江尋常小學校

第二學年男　岩本安治

ボクハ學校カラカヘツテ、スコシアソンデヰタラ、オカアサンガ「オヒルダカラトウクヘイツテラ、ボクハ家ノ前ニイマシタ。ソウシタラヂシンガ來タカラ、イツモノ小サイノカト思ツタラ大キイノデカハラガ雨ノヤウニフツテキマシタ。

ボクハオドロイテ、モウ死ヌノカト思ヒマシタ、少シヤンダカラ、大ドホリヘニゲマシタ。スルトスグソバノタカナハゴシヨカジダ、トノコトデビツクリシマシタ。

セツカクタスカツタカヒガナイト思ツタラ、カジガソノ中ニヤンデタスカリマシタ。

妹ハ大キナコエデ、泣キドホシデシタ。ヤケタ人ハドンナニコマルダラウ。

ヂシン

麻布區　絶江尋常小學校

第二學年女　飯塚ハル子

一月ノ十五日ニマタ大ヂシンガアリマシタ。ソノ時私ハ、マダネテヰマシタ。スルト、一バンサキニキタノハ、シタノ方カラ、モクモクトキマシタ。私ハソノ時チイサイカラ、ダイジヤウブダトオモツテ、フトンヲカブツテネテヰマシタ。ソノウチニ大キクナツテ、上カラオハチガオツコツテ、ゴハンヤラ、オシロイガコボレテ、フトンガシロクナリマシタ。

スルトボクジユウガ、コボレテ、私ノカホガスミダラケニナリマシタ、ソノウチニ、オトウサンガ、「ウチガマガルト、戸ガアカナクナルカラ、ハヤクニゲナサイ」トイヒマシタノデ、スグニ、ニゲマシタ。

オモテヘデテミルト、ハウボウデタキビヲシテヰマシタ。ヂシンガアルト、コハクテナリマセン。

おそろしかつた九月一日

赤坂區　赤坂尋常小學校

第二學年男　磯邊幹介

學校からかへつておひるごはんを食べて居ると、あのおそろしい大地しん。いきなりグラグラツと家がゆれたので、ぼくはおどろいて家のものと外へかけ出ましたが、歩くことはできませんでした。少しやんだと思ふうちにまたゆれだしたのでずゐぶんびつくりしました。けれども家はつぶれませんでした。そのうちに地しんも大ていやみまし

たから、出て見るとつぶれた家もあり、やねのかはらなどは大がいおちてゐました。下町の方を見上げるとくろいけむりがくものやうにもうもうと空にたち上り又ときどき大きな音がきこえました。夜になると火じはだんだんひろがつて、空は一面にまつかになりました。それはまことにものすごいありさまでした。やけてゐるところの人達はずゐぶんなんぎをしてゐることであらうとつくづくと思ひました。その晩は天とをはつてこわいくと思ひながらねてしまひました。

大ぢしん

赤坂區　赤坂尋常小學校
第二學年女　結解百合子

それはちやうど大正十二年九月一日、どんのなるちよつと前のことでございました。おひるのしよくじをすまして私たちのべんきやうべやでゐをかいてあそんでゐましたがいもうとたちと何かかはつたことをしておあそびませうと思つておざしきの方へ行くとがたがたとゆれだしました。「あらじしんだわ」と言つてゐる中にだんだんひどくなつて來ました。するとおばあさんがいらつしやいました。「おばあちやん」といもうとがつかまりましたがいらつしやいました。私たちはぢしんのこはいことを知りませんから「わあわあ」さわぎました。するとおばあさんがおしかりになりました。それからおざしきのまん中へあつまつて神様に早くぢしんをなほして下さいとおいのりをしてゐました。まもなくしづかになつたからあたりを見ますとかべはくづれてゐる。ちくおんきはかたむいて。おるがんの上のご本もうちわも花立てもみんなをちてゐました。しばらくするとおとうさんがいそいでおかへりになりましたので外へ出ました。まもなくおかあさんがおかへりになりました。そのうちにあちらからもこちらからもくわじがおこつてうちのうらの一つ木通りもさかんにもえはじめました。それでにもつをこしらへてにげるしたくをしました。ごはんも外で食べました。何べんも來るぢしんも

おそろしいので外でごきんじよの方とごいつしよにねました。けれどもとてもすやすやとよくねることは出來ません。お月樣は私どもをぴかぴかてらしてまもつてゐらつしやるやうに見えました。その中に夜があけて二日になりました。今度は〇〇〇〇じんがあぶないといふのでその晩も皆外でおやすみになりましたが私どもはおとうさんがからだにわるいとおつしやつたので家の中でねましたがぢしんが來たりくわじだといわれたりして度度目をさましては大さはぎをしましたおはなしをきけば今度のぢしんのためにはけがをしたりおかあさんやおとうさんにわかれたり死んだりしたかはいさうな人もたくさんあるのに私はげん米さへいただかないですんだのは何としあはせではありませんか。

バラックニスムオ友ダチ

赤坂區　青山尋常小學校　第二學年男　祖父江鼎介（十才）

去年ノ大ヂシンハズイブン大キウゴザイマシタ。下町ノ方デハタクサン家ガツブレテスグ方々カラ火ガデテ大火ジニナリマシタ。大ジナモノヲモツテデタ人ハ、ソレニマデ火ガツイタノデ、ソノニモツヲステテニゲヤウトシテモ、火ノ海デヤウイニニゲラレナカツタサウデスソノ中ヲヤツト青山マデ、ニゲテキテボクタチノ學校ニヒナンシテヰル内ニバラツクガデキマシタカラ、ソレニウツツタノダサウデス。ケレドモサムクナツテカラハ、サムイ〳〵北風ガフシアナヤ、スキマカラフキコンダリ、又雨ヤ雪ガフリコムノデ、アンシンシテネルコトモデキズ、夜ハデントウガクライノデ、ジユウニ勉キヤウモデキナイサウデス。ホントウニオキノドクニオモヒマス。ソレデモ方々ノシンセ

ツナ方カラオクツテイタダイタキモノヤ學校ノドウグデ、毎日ボクラトイツシヨニベンキヤウシテヰマス。ボクラモデキルダケヨクベンキヤウシマセウ。

しんせつなおまはりさん

赤坂區　青山尋常小學校
第二學年女　川島楠美子十さ

私はついこの間かとうさんと二人で中島さんのうちへあそびに行きました。その時明治神宮外えんの大通りの前を通りぬけようとするとそばにゐたおまはりさんが手をひろげて、かとうさんと私をとめました、どうしてだろうと思ひましたら、その時ちやうどそのよこ町から自どう車がいせいよく走つて來たのでした。おまはりさんは私どもが知らずに通るのであぶないから、とめてくださつたのです。そのうちに自どう車が通つてしまひましたからやつと通りぬけて中島さんのうちへ行きました。しばらくあそんでかへつてからうちのおとうさんにおまはりさんのことをおはなしますと、お父さんは「それはいいおまはりさんだつたお前が知らずに通れば自どう車にしかれてしまつたのだらう。まあよかつた。」とお言ひになりました。私も其の時おまはりさんのおかげでたすかつたと思ひました。あのおまはりさんはほんとうにしんせつな方でした。

オマハリサン

赤坂區　中之町尋常小學校
第二學年男　鹽谷實

テンネントウガデキタトイツテ、
オマハリサンガカンゴフツレテ、
アツチノミチヲアルイテイツタ
モウクレカカツタフユノソラ

ミカヅキサマガヒカツテル

にはとり

赤坂區　中之町尋常小學校
第二學年男　平林正男

去年の五月の末のころ家で鳥がたまごをあたためました。ひるも夜もいつしやうけんめいになつて、ゑも少ししか食べないのです。手を出すとおこつて、つつきます。ひよこがかへると前よりいつそうしんぱいして何が來るかと思つてあたりを見まはします。これも皆おやが子どもをかはいがるからです。

ごま

赤坂區　中之町尋常小學校
第二學年男　喜多川久治

ひばちの上のほうろくの中で
　ごまのへいたいせんそうのけいこ
ざくざくざく足おとそろへて
　かけ足したり
ぱちぱちとてつぱうつつて
　ごまのへいたいいさましい。

ていとふくかう

赤坂區　青南尋常小學校
第二學年男　今井貞彦

九月一日正午とつぜん物すごい地鳴りとともに大地はゆれだした。それとともに東京市はもう火につゝまれた。黒えんは天にちゆうしけむりとも雲ともわからないわたをつんだやうな物がたえず動いてゐる。此のやうな日が二日つゞき大東京はくわいじんにきしたのである。た

ぐちにかいげんれいがしかれる、きうごしよがもうけられる。其のうちにバラックが出來る。かうしてくわいじんの町は一日一日ふくかうされるのである。ていとが全部ふくかうされるのはもう近いだらう。僕等も此のていとふくこうにつとめなければならない。

ぢしんの時

赤坂區　青南尋常小學校

第二學年女　高木喜代子

ぐらぐらぼうぼう大ぢしんとともに大火事がぱつと一めんにひろがりました。そうして下町いつたい火の海となつてしまひました。にげまどふ人々、あつさにたえきれなくなつてなきごゑをだす人、あかんぼをおぶつてまごまごしてゐる女の人人、子供を人ごみでなくした人などはきちがひのやうに火の中をこぐりこぐりさがし、かけまはつてとうとうゐなひとあきらめてしほしほとしてしまひますがそれでも子供たちやじぶんのいのちはたいせつです。にげてはさがしにげてはさがしてゐる人人も一人や二人ではありません。火は今をさかりにもえてゐます。私どもは青山ですからたいしてけがもすくなくてすみました。下町の人人はおきのどくです。こんなおそろしい事は私は生れてはじめてです。そのうちにだいぶ火事もした火になつたころぱつとまつくろなはひが空へ立ちのぼつて下町の空一めんといつてもいいくらいくろぐろと空をそめました。火事もやんでから二三日して雨がふりました。死の雨とでもいふのでせう。ほんぢようのひふくしようで死んだ方がたがあるそうです。

大ぢしん

赤坂區　氷川尋常小學校

第二學年男　川合幹夫（八才）

大正十二年九月一日に大ぢしんがありました。ぼくは大ぢしんの時にはまだ學校からかへつて來たばかりであついのではだかでゐたのです。そうするとあの大きなぢしんが來たのでぼくは二かいからころげるやうにして下りて來ました。そうしてくろ田様のおやしきへにげこみました。それから一時間もたたないうちに新町から火じが出てぼくの家はやけてしまひました。それでくろ田様のおやしきに三日間ゐました。そしてぼくはよどばしに立のきました。今はぶじにあざぶのたんす町にひきこしてゐます。その時のことを思ひ出すとまるでゆめのやうです。

大ぢしん

赤坂區　氷川尋常小學校

第二學年女　畑　ま　す　子（七才）

九月一日のぢしんはずゐぶん大きうございました。私はびつくりして外にとび出ました。おかあさんはまつさをになつて目がまはるといつてゐました。その中にくわじがだんだん大きくひろがるので私はねえさんをよびに行きました。そしてかどまで出たらばねえさんがかへつて來たのです。そしてばんのごはんをいただきましたがまづくてどうしてもたべられませんからすぐよして又外に出てふるへてゐました。くわじはそうひどくなつて來ますのでそれからにげるようにしてにげました。

大ぢしん

四谷區　第一尋常小學校

第二學年男　佐　藤　千　秋（十才）

九月一日の大ぢしんでなん千といふほどの人々がしんでしまひましたのはほんとにおきのどくなことです。私たちはしななくつてよつぽ

どしあはせなことです。やけてきた人はなにもかもやいてしまつてひとへもの一まいきてにげてきた人もありましたやうですが、そういふ人はまことにおきのどくなことと思ひます。

大ぢしん

四谷區　第一尋常小學校

第二學年女　八木橋君子(十才)

九月一日のおひるごはんの時でした。大きなぢしんがきて、うちがひつくりかへるのかと思つてむちうでとび出しました。きんじよではつぶれた家もあつて、どこでも大さはぎです。私のうちではうち中すぐそばの原へのじくすることにしました。日がくれるとそこら中はまつくらでそらだけは火じのあかりでまつかになりました。お母さんと私は火じがここまで來たら青山の原へにげませうとおはなしをしてゐました。そのうちににもつを車につんだり、大づつみをかついだり、又は手ぬぐひをかぶつたりした人人がぞろぞろつづいて來ます。たぶん下町でやけ出された人たちでせう。だんだんおなかがすいたからお父さんが何か食物を買ひに行きましたがやほ屋にもおくわし屋にも何もなくなつて大へんこまりました。そうして二ばんのじくして三日目にやつとうちでねました。やけ出された人たちはどこへねるのでせう。

しんさいの後

四谷區　第二尋常小學校

第二學年男　佐藤修一(七才)

震災があつた後、やけあとを見に行きましたが、九だんの上から方々を見ますと、今まではきれいた家がすきまなくならんでにぎやかであつた東京は、見るかぎりやけくづれてひろいひろいやけあとになつてしまひましたのにはおどろきました。

ここからあるいて、上野淺草本所まで行きましたが、たくさんの人がかさなりあつてやけ死んだ所を見てきましたが、そのかはいそうなことを思ひ出してなみだがこぼれました。

やけ出された人は、みんな日比谷芝青山とふひろつばにてんとをはつてひなんしてゐましたが、このあひだ淺草の方まで行きましたところ、いつのまにかきたないやけあとにきれいな家がならんで元のやうににぎやかになりました。

今年のお正月は、いつもとちがつて松かざりもなくかるたとるこゑもきこえないさびしいお正月でありましたが、この二十六日の東宮殿下の御成婚日は、天氣もよく澤山の人がよろこんでばんざいをとなへておいはひをしましたので、大そうにぎやかにこの日をすごしたので何よりもうれしくおもひました。

九月一日

四谷區　第二尋常小學校
第二學年女　森田春子(十才)

私はあのおそろしい九月一日のあの時は、ほんとうに生きてゐるやうな心もちはしませんでした。空には大きなにうどうぐもが、むく〳〵と出て、私の方へ來るやうに見えますから、こわくてこわくて、たまりませんでした。空はまるで火のようにまつかになつて、もうじきそばがやけてゐるやうに、見えたので、もうきつと家はやけるだらうと思つて、死ぬかくごをしてゐました。しばらくたつと、おとう様がかへつていらつしやいました。その時ちやうど、なつふくをきていらつしやつたのでうでのところに血がついてゐたので、おかあ様が、あなたどうしてうでに血をつけていらつしやるんですかといふと、それはよその人のがついたのだと、おつしやつて、きみがわるく思つて

ゐました。それからそのほか、いろ〳〵のことを。はなして下さいました。

私は丸の内でも、人が死んだかと思ふと、何だか日本の人たちが、だんだん、すくなくなりはしないかと思つて、心ぼそくなりました。この多くの人の中には、おやをなくしたり、子供にわかれ、家をやかれ、又大じなどうぐなどを、はいにした方方や、その外、さまざまなかなしい、あはれなめにあつた人々は、どれくらひあるか知れませんそれを思ふと、私どもは何としあはせではありませんか。

どうよう

四谷區　第三尋常小學校

第二學年男　山本進

(一)　にじ

向ふのお山に
にじが出た。
にじは天のはしでせうか
ぼくもあすこに行きたいな
いえいえあすこにあ
行けません。

(二)　夕方

日がくれた
日がくれた
西のお山に日がおちた
東の森から月が出た。
そらにはほしが
きらきらと
目ばたきするよに
光つてる。

おそろしかつたぢしん

四谷區　第三尋常小學校
第二學年女　合田道子

大正十二年九月一日のおひるでした。私たちがぱんをたべてゐる時きうにぢしんがゆつて來ました。みんなたんすのかげへよけましたけれどあんまりひどくゆれるので、たなの物はどんどんおちますしなんだかむやみにひどい音ががらがらときこえてかべの土もおちてきますしやうじやふすまははづれたりまがつたりしてはしらとかべの間がひらいたりしまつたりしたやうです。

今にもうちがづぶれるかと思つてこはくてたまりませんのでいつしやうけんめい神樣においのりしてゐました。

きがついてみるとちくおんきが前の方へ出てしまつて、本ばこからは皆本がでてしまひました。

弟は私の手の所へかほをかくしてゐましたが、ゆれる度にあたまをこつんこつんとぶちます。大きいのや小さいのやゆりかへしが度々あります。その中に私と弟はよそのひろいおにはへつれていつていただきました。

向ふの空をみますと、くわじのけむりがくものやうに白くむくむくと一ぱいみえます。その中にくらくなりましたのでうちへかへるとでんきのかはりにろうそくがつけてゐました。すゐどうもがすもでなくなりました。おとうさんがけがをなさらないやうにいのつてゐましたらその中におとうさんがおかへりになりましたのでみんなで大そうよろこびました。おとうさんが「もうだいじやうぶだからおねなさい。」とおつしやいますから私と弟はねました。けれど度々ぢしんがあるのでよくねむれませんでした。弟はとうとうびやうきになりました。おとうさんやおかあさんはずいぶんしんぱいなさいました。

そのあしたおとうさんはかんづめやおかしをたくさん買つていらつ

しやいました。ぢしんはなかなかやみませんでした。
くわじやぢしんで死んだ人がかぞへきれないほどあつてきのどくなはなしがたくさんあるさうです。

おそろしかつた去年のぢしん

四谷區　第四尋常小學校
第二學年男　島田裕之

大正十二年九月一日といふ日は、ほんとうに忘れることのできないおそろしい日であつた。その日は雨がふつたり、やんだりしていやな日であつた。その日に學校がはじまつたので、學校へまいりました。學校からかへつてあんまりあついので、しやつ一まいですずんでいました。そうするとあの大きなぢしんが、どすんとまいりました。あはてて外へとびださうとしましたけれどもすべつてあるけませんでしたそのうちにたなの物はおちる、たんすはひつくりかえる、から紙はたふれるかべはおちる。うちの中はすなけむりで一ぱいでした。そしてざしきは半ぶんがけの下へおちました。それから外へ出ましたらおとなりの家がこはれて下へおちたのでもうありませんでした。前のあき地へ出ましたら方々の人々があつまつて來ました。火事がなければいゝがなあと言つているうちに、方方からくろいけむりがあがりました。そらには入道ぐもがあがつてまことにものすごうございました。かじはみるみるうちにひろがつて、大きくなりました。水どうはとまり、がすも、でんきも、ありませんから夜になつてもまつくらでしたその晩はのじくしましたが〇〇人さはぎでねむれませんでした。東のそらをみましたら火でまつかでした。ぼくはここまでやけてくるかと思つてほんとうにおそろしく思ひました。そのよく日も次の日も火事はやみませんでした。ぼくはふかがはへいつてゐるあねと、兄さんがしんぱいでしたがいのちだけはたすかつてにげてきましたのであんしんいたしました。今も大ぢしんのよしんがつづいてゆすぶつてゐま

す。

だいくさん

四谷區　第四尋常小學校
第二學年女　瀨川壽子

朝から晩まで
こつこつと
しごとにせいだす
だいくさん

日もまだ出ないのに
こつこつと
何をつくるか
だいくさん

去年の大ぢしんに
つぶれたおうちを
いつしやうけんめいに
こつこつと
つくつてくれる
だいくさん

やけあと

四谷區　第五尋常小學校
第二學年男　山田重治郎（八才）

ぼくはおとうさんとでんしやにのつて、やけあとをみに行きました。

いつてみたらば、みんなバラックでした。

それでぎんざどほりなどは、みんなだめになつてしまひました。

ぼくはそれをみておどろいてしまひました。
ぼくはじしんやくわじは大そうおそろしいものだと思ひました。

大じしん

四谷區　第五尋常小學校
第二學年女　有田よし子（八才）

私はぢしんのあつた日、學校からかへつて、きものをきかへてしばらく内にゐました。
私はおともだちとあそびたいのでさきへごはんをいただきましたがすんだところへあの大ぢしんがおこりました。
私はびつくりしまして、みんなでたんすの前にかたまりました。
するとたなの上からきやうだいがおちてきてちいねえさんの足をすこしきりました。
それからぢしんはやみましたのでいいとおもひましたら、こんどは

しんじゆくがかぢだといつたのでびつくりしました。
私の内はやけるとおもひましたからやぐやきものを出すようにをしましたが時々ゆれるのでこはごはでたりはいつたりしました。

九月一日の大ぢしんの時

四谷區　鮫橋尋常小學校
第二學年男　丸山正雄（九才）

私は九月一日の大ぢしんに大そうおどろきました。あぶなくて二日ばかりのはらへねました。それからきんじよの人におむすびをもらつたりおせんべいをもらつたりして大そうきんじよの人にめいわくをかけました。そのとき下町には大かじがありました。やけだされてくる人は大そうかはいそうなんです。私はやけだされてくる人をみて大そうきのどくでしたからいただいたおむすびをあげました。それからかじもやんでもう大じやうぶといつてうちへかへつてきてみましたら、

うちがまがつてゐました。それからうちがなほるまでやうちえんにゐました。十日ほどたつてもとのうちへかへりました。

ヂシン

四谷區　鮫橋尋常小學校

第二學年女　熊谷　こと(九才)

私ハ學校カラカヘツテアマリアツイノデコホリヲカヒニイキマシタカツテウチヘクルトガタガタト、ユレテキマシタカラ、私ハオドロキマシタソノウチニオカアサンガジシンダカラオモテヘデヨトイヒマシタ。私ハイモウトヲオブツテテイシヤバニ、ニゲテイキマシタ。コウナイニゴザヲシイテ、ソノ上ニスワツテヰマシタ。ユフガタニナルトネエサンガウチカラ米ヲモツテキテタイテクレマシタ。私ハソノゴハンヲタベテコウナイニネマシタ。ヨナカニメヲサマシテミルト方々ノ人人ガミンナネテヰマシタ。

九月一日の大ぢしん

牛込區　赤城尋常小學校

第二學年男　山崎城

ぼくが學校からかへつてきて、ごはんをたべようとしてすはるとごーごーと地ひびきがしてぐらぐらと地しんがきました。

やまるかと思ふとますますつよくなります。おばあさんはぼくのいもうとをだいてころんではたちしてゐました。そしてゐるうちにとだなはたほれるしこまつてしまひました。ぼくがまどをあけますと千葉さんの家のとなりのようしよくやで女の人が男の人にかかへられて出てきました。地しんはやみましたがまだがたがたといつてゐました。それからはしごだんをおりてそとへでますと二十一ぐらいの人がお母さんにすがりついてゐました。それからきよう會のいすを五つぐらいそとへだしました。一ばん大きいにいさんはかしはぎ